

## 法務教官から見た現代の非行少年像に関する研究

矯正協会附属中央研究所 保木 正和  
 木村 正孝  
 古曳 牧人  
 原島 實  
 矯正研修所東京支所 工藤 弘人\*

キーワード：非行少年像 法務教官 特性形容詞尺度

### I はじめに

少年による凶悪な事件が起こり、マスメディアで取り上げられる際には、非行少年像が語られることが多い。近年では、「キレル」、「他人の気持ちが分からない」などと言われることが多く、また、この傾向が、子育て、教育、社会の問題と結び付けられ、いわば社会の歪みの表われとして語られることも多い。そうした視点からの分析にはもちろん意味があるし、優れた考察も見られるが、一方で、社会の関心の高さもあって、余りにも多くの人が、それぞれの立場から様々なことを語っているようにも見え、また、特定の事件を起こした少年の問題が、まるで非行少年全般の傾向のように語られている印象を受けることもある。

一般の人はどのような非行少年像を抱いているのであろうか。例えば、内閣府は、「少年非行問題等に関する世論調査」を実施しており、これは非行少年像の調査を直接の目的としたものではないものの、どのような印象を持っているかをうかがい知ることができる。ただし、多くの方は、日常的に非行少年に接しているわけではなく、上に述べたようなマスメディアの影響を強く受けているのではないかと思われる。

一方、非行少年像に関する実証的な研究があるかという点、この種の研究は意外に少ない。その理由としては、一口に非行少年と言っても、実際には様々なタイプがあるので、心理尺度等を用いた測定が難しいことが挙げられる。

例えば、矢島（1983）が中学生を対象として行った研究は、数少ない実証的な研究の一つであるが、この研究では、非行少年を、暴走族、シンナー乱用などの数タイプに分

\* 前矯正協会附属中央研究所

けてその印象を聞いている。これは、それぞれのイメージが異なることを示すことを目的としたものだが、逆に言えば、上記のような測定の難しさを反映しているとも見られる。また、「非行少年像」をタイトルに含む研究は、矯正の分野でも行われているが（津田，1976など）、その多くは、非行少年の心理テスト結果を検討したものが中心であり、他者から見た非行少年像というよりも、非行少年の特性の研究に分類することが適当だと考えられる。

また、もう一つ非行少年像に関して言えることは、非行少年は成長の途上にあり、多くの非行少年が立ち直っていくにもかかわらず、問題点ばかりが指摘されていることである。矯正の分野では、少年院における少年たちの成長が記述されることがあるが（小澤，2003など）、こうした記述を見ると、比較的明確なイメージの変化があると思われ、定量的なイメージ測定が可能ではないかと考えられる。

本研究は、以上のような問題意識を背景に、少年院や少年鑑別所において非行少年を処遇している法務教官が、どのような非行少年像を抱いているかを明らかにすることを目的としている。

ここでの関心は、以下の4点である。

一つ目は、一般の人が抱く非行少年像との比較を行うことである。一般人の非行少年像に関する信頼できるデータは少ないので、先に挙げた内閣府の世論調査（「少年非行問題等に関する世論調査（平成13年11月調査）」）を利用して比較を行う。法務教官も社会人であり、マスメディアの影響を受けているので、一般の人と全く異なる非行少年像を描いていることはないと思うが、生活を崩した少年達を指導する専門家であり、目の前の非行少年の問題点を見つめているので、イメージの違いが現れることが予想される。

二つ目は、収容少年の非行少年像をできるだけ全体的にとらえることである。これをシンプルに行うためには、できるだけ基本的な次元で非行少年像をとらえることが有効だと思われる。林（1978）は、対人認知の研究における基本3次元を示しており、質問紙（特性形容詞尺度）も開発されている。質問紙の使用実績も、十分なものがあると考えられる。

なお、パーソナリティ研究の分野では、近年、Big Five 仮説（性格は5因子から成るといふ学説）が有力になりつつあるが、これは人が人を認知する際の枠組みと関連があるのではないかと指摘があり、林の基本3次元とBig Five 因子との類似性についての論考もある（泊，2001）。こうした点からも、対人認知の基本的次元という意味での妥当性も高いと考えられる。

三つ目は、非行少年の成長を、法務教官から見た非行少年像という側面からとらえることである。ここでは、先の対人認知の基本的次元における把握とともに、少年院における教育目標を尺度として利用することにより、より具体的な形で成長をとらえようと

考えた。

四つ目は、非行少年像の把握に関連して、法務教官が、非行少年に対してどのように成長してほしいと願っているかを明らかにすることである。このことは、法務教官がどのような想いで非行少年の処遇に当たっているかに深く関連すると考えられる。

## Ⅱ 目的

法務教官が抱いている非行少年像を明らかにする。特に、非行少年の成長という面に焦点を当てるとともに、法務教官が抱く彼らに対する希望を明らかにする。

## Ⅲ 方法

### 1 調査対象

調査対象者は、全国の少年院、少年鑑別所に勤務する法務教官（統括、課長補佐以上を除く。）である。

本研究における調査票は(A)と(B)の2種類があり、調査票(A)の対象者は200名、(B)は300名である。それぞれ異なる対象者に実施したので、合計は500名である。

調査対象者は、乱数を用いて名簿から無作為に抽出した。長期研修中等の理由により、調査が実施できない職員の回答は不要とした。また、調査への協力は、各対象者の任意とした。最終的に回収された調査票数は、452であった（回収率90.4%）。回答者の属性を、表1及び表2に示す。

表1 回答者属性

	調査票(A)				調査票(B)				総計
	男性	女性	記載なし	合計	男性	女性	記載なし	合計	
少年院	113	20		133	167	27	7	201	334
(%)	(25.0)	(4.4)		(29.4)	(36.9)	(6.0)	(1.5)	(44.5)	(73.9)
少年鑑別所	35	5		40	63	4		67	107
(%)	(7.7)	(1.1)		(8.8)	(13.9)	(0.9)		(14.8)	(23.7)
記載なし	4		5	9	1		1	2	11
(%)	(0.9)		(1.1)	(2.0)	(0.2)		(0.2)	(0.4)	(2.4)
合計	152	25	5	182	231	31	8	270	452
(%)	(33.6)	(5.5)	(1.1)	(40.3)	(51.1)	(6.9)	(1.8)	(59.7)	(100.0)

表2 回答者属性（年齢と勤務年数）

	平均年齢				勤務年数			
	男性	女性	記載なし	合計	男性	女性	記載なし	合計
少年院	39.5	35.0	27.0	38.8	14.6	10.7	1.0	14.0
(SD)	(9.7)	(8.8)	(0.0)	(9.7)	(10.3)	(8.9)	(0.0)	(10.2)
少年鑑別所	41.7	34.9		41.1	17.4	12.3		17.0
(SD)	(9.7)	(5.4)		(9.6)	(10.4)	(7.0)		(10.2)
記載なし	31.4			31.4	7.4			7.4
(SD)	(1.9)			(1.9)	(1.5)			(1.5)
合計	39.9	35.0	27.0	39.3	15.2	10.9	1.0	14.6
(SD)	(9.7)	(8.4)	(0.0)	(9.7)	(10.3)	(8.6)	(0.0)	(10.3)

## 2 調査時期

平成15年10月1日から同年10月末日まで

## 3 調査方法

質問紙法である。

「1 調査対象」で述べたように、当研究所で調査対象となる法務教官を指定した上で、調査票を各少年院、少年鑑別所に送付した。

各施設において調査票を対象者に配付し、対象者は、回答後に封緘した調査票を施設に提出した。各施設は、提出された調査票を取りまとめ、当研究所に返送した。

なお、封緘は、回答の自由を保証するための措置である。

## 4 調査内容

先に述べたように、調査票を(A)と(B)に分けたことには、全体の分量を抑える目的と、一般の非行少年についての調査内容と、収容少年についての調査内容を分ける目的があった。

さらに、調査票(B)には、少年院職員用と少年鑑別所職員用の2種類がある。これは、両施設の設置目的の違いや、収容期間の違いを考慮して、少年院では教育による非行少年の成長に関する調査、少年鑑別所では非行少年の現状に関する調査というように内容を分けたことによる。

なお、非行性という面で両施設の違いを簡単に説明すると、平均的には、少年院の方が非行性が進んでいる少年が多い一方、少年鑑別所に収容されている少年の方が非行性の範囲は広いと言える。

以下は、調査内容の概要である。調査票(A)の調査内容は、「結果」において示している。また、調査票(B)の内容は、資料2として末尾に掲載している。

(1) 全調査票に共通する調査対象者属性に関する項目

- ① 性別
- ② 年齢
- ③ 勤務施設（少年院又は少年鑑別所）
- ④ 勤務年数

(2) 調査票(A)

調査票(A)は、法務教官が抱えている「一般の非行少年像（少年院や少年鑑別所に収容されている少年ではない）」を調査することを目的として、「少年非行問題等に関する世論調査（平成13年11月調査）」（内閣府）の一部を実施している。この世論調査は、「① 非行の実態について」、「② 非行の原因について」、「③ 非行防止と立ち直りのための活動・対策について」という三部構成になっているが、このうちの①と②を実施した。

具体的な調査項目は、以下のとおりである。

- ① 少年非行の増加（増加しているか）
- ② 増加している非行（増加している非行の種類）（複数回答可）
- ③ 凶悪事件を起こす特徴の経緯（複数回答可）
- ④ 実際に身の回りで問題になっている非行（複数回答可）
- ⑤ 社会的に見て問題だと思う非行（複数回答可）
- ⑥ 非行の大きな原因（複数回答可）
- ⑦ 少年自身の問題（複数回答可）
- ⑧ 社会環境の問題（複数回答可）
- ⑨ 社会風潮の問題（複数回答可）

なお、この世論調査は、個別面接法で実施されたものであり、本調査とは実施方法が異なっている。

(3) 調査票(B)

調査票(B)は、法務教官が描いている「収容少年」の非行少年像を調査することを目的としている。少年院職員用と少年鑑別所職員用の内容は異なるが、いずれも、以下の三つの部分から構成されている。

ア 少年院職員用

① 特性形容詞尺度

この尺度は、3因子からなる対人認知構造に関する尺度であり、パーソナリティ特性を表す20対の形容詞について、7段階評定を行う。

入院時と出院時の収容少年について、それぞれ評定する。

## ② 教育目標

少年院では、個々の少年の問題に応じた個別的処遇計画が作成されており、この計画には、各人に必要と思われる教育目標が設定されている。この教育目標は、少年院において実施可能な教育方法、内容であるという一定の制約は受けるが、個人に即したものであるため、その内容は非常に多様である。

このような個人別教育目標の中から、主だったものとして研究担当者が選択した30項目について、少年院在院中の成長の度合いを、「大きく変わる」から「変わらない」までの4段階で評定した。①は、対人認知の基本的次元での変化を見ようとするのに対し、ここでは、より具体的に変化をとらえることを目的としている。

## ③ 自由記述

今後、収容少年に対してどのように成長してほしいと思っているかを記載するものである。

### イ 少年鑑別所職員用

① 特性形容詞尺度を用い、少年鑑別所入所時の収容少年のイメージを測定する。

② 「ア」の「②」で述べた30項目について、少年鑑別所入所中の少年の現状にどの程度当てはまるかを尋ねた。「あてはまる」から「あてはまらない」までの5段階評定である。

なお、設問が少年院職員用調査票と異なるため、これに合わせて、若干、項目の文章も変えている。

## ③ 自由記述

「ア」の「③」と同様である。

## IV 結果と考察

### 1 一般の非行少年像（世論調査との比較）：調査票(A)

#### (1) 集計方法

「少年非行問題等に関する世論調査」では、20歳未満（以下、「一般社会未成年」と言う。）と20歳以上（以下、「一般社会成人」と言う。）の2群に分けて結果の集計を行っている。

本研究の結果（表3から表11，図1から図9）は、世論調査における2群と、法務教官のデータを並べて表示している。縦軸は調査対象者数に対する割合である。

なお、項目順は、表3以外は、法務教官の回答率が高かった順に並べた（「その他」、「特になし」、「わからない」を除く。）。

表3 非行の増加

	一般社会未成年	一般社会成人	法務教官
かなり増えている	38.8	58.9	42.3
ある程度増えている	49.4	33.5	44.0
ほとんど(全く)増えていない	5.9	4.3	10.4
減っている	1.4	0.6	0.0
わからない	4.6	2.7	3.3

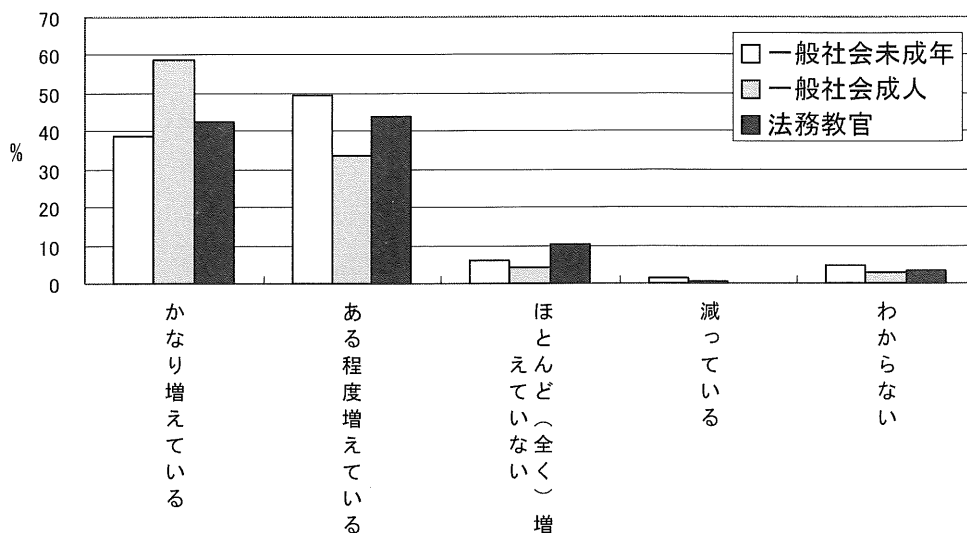


図1 非行の増加

表4 増加している非行

	一般社会未成年	一般社会成人	法務教官
低年齢層による非行	34.4	58.7	69.8
凶悪・粗暴化した非行	34.1	53.2	66.5
集団による非行	28.1	34.9	42.3
明確な動機がない非行	25.8	37.0	39.6
好奇心・スリルなど動機が短絡的な非行	24.3	27.7	34.1
突然キレて行う非行	49.4	52.5	32.4
周りから誘われたり強制されて行う非行	13.0	16.8	18.1
その他	0.1	0.6	6.6
増えているとは思わない	1.8	1.3	0.5
わからない	4.4	2.4	1.1
平均回答項目数	2.2	2.9	3.1

注 複数回答可。数値は、調査対象者数に対する割合(%)である。

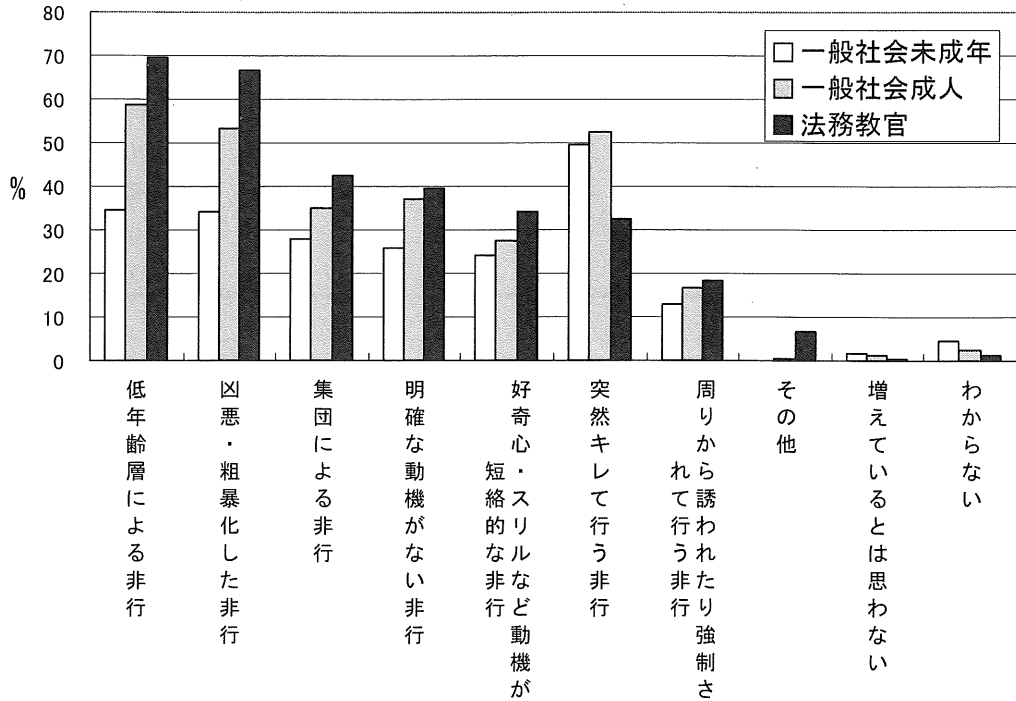


図2 増加している非行

表5 凶悪事件を起こす少年の経緯

	一般社会未成年	一般社会成人	法務教官
家庭環境に問題のある少年	59.8	70.9	83.5
友人関係に問題のある少年	21.5	31.2	41.2
学校生活になじめない少年	30.9	35.1	37.4
何ら問題がないと思われている少年	32.0	35.2	28.6
以前に不良行為や犯罪行為があった少年	18.5	14.3	27.5
その他	0.3	0.7	12.6
わからない	4.2	3.7	1.1
平均回答項目数	1.7	1.9	2.3

注 複数回答可。数値は、調査対象者数に対する割合 (%) である。



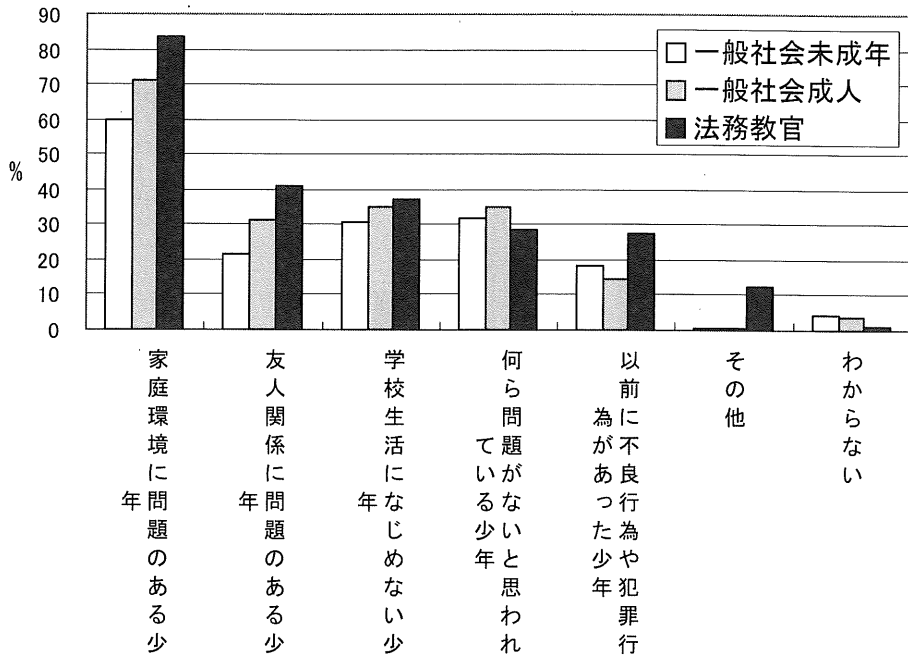


図3 凶悪事件を起こす少年の経緯

表6 実際に身の回りで問題になっている非行

	一般社会未成年	一般社会成人	法務教官
ささいなことに腹を立てて暴力を振るう	18.9	16.4	42.3
バイクや自転車などを盗む	22.9	22.8	41.2
バイクや自転車などでひったくりをする	17.9	18.6	35.7
暴走行為をする	12.7	16.3	34.1
飲酒・喫煙などの不良行為	35.0	23.8	33.0
不登校の問題	30.0	17.6	19.8
いわゆるオヤジ狩りなどの強盗・恐喝事件	3.8	4.8	19.2
いじめの問題	27.5	19.5	19.2
覚せい剤やシンナーなどの薬物の乱用	5.5	6.7	15.4
いわゆる援助交際などの性の非行	3.3	5.0	15.4
家庭内暴力など、家庭内での非行	4.6	7.6	13.2
刃物などを使った殺傷事件	3.6	5.0	11.0
刃物などを持ち歩く	5.8	5.4	7.7
家出の問題	7.7	4.3	7.1
校内暴力の問題	7.8	6.0	2.7
その他	0.3	1.4	5.5
特にない	25.0	31.8	11.0
わからない	3.0	5.2	2.2
平均回答項目数	2.4	2.2	3.4

注 複数回答可。数値は、調査対象者数に対する割合 (%) である。

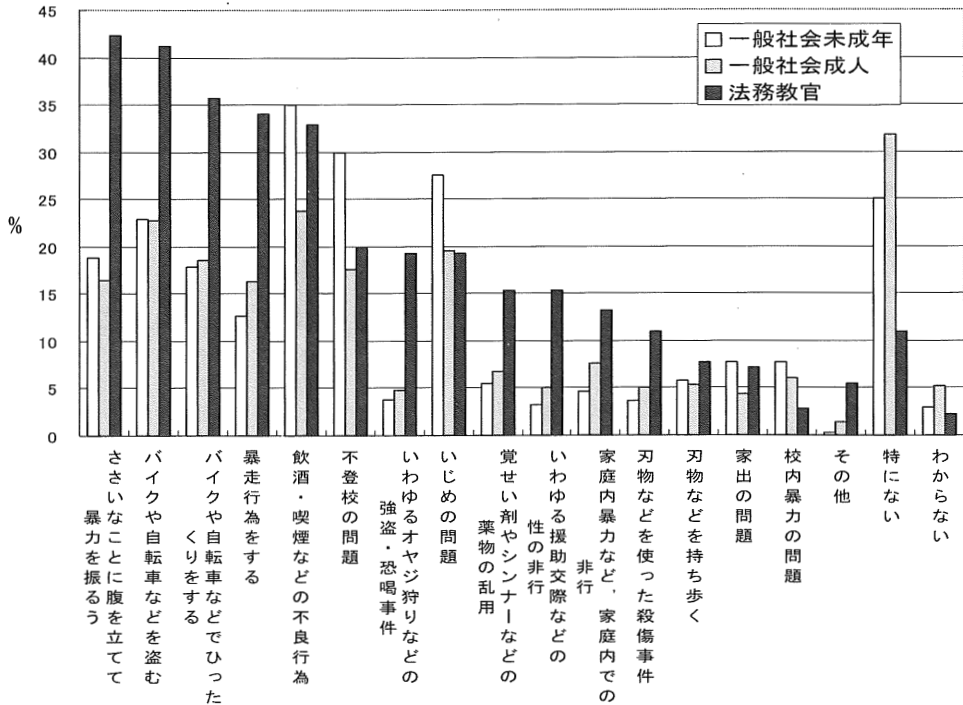


図4 実際に身の回りで問題になっている非行

表7 社会的にみて問題だと思う非行

	一般社会未成年	一般社会成人	法務教官
ささいなことに腹を立てて暴力を振るう	28.5	35.2	65.9
覚せい剤やシンナーなどの薬物の乱用	41.6	39.8	62.6
いわゆる援助交際などの性の非行	19.1	33.0	60.4
刃物などを使った殺傷事件	49.2	48.4	57.1
いわゆるオヤジ狩りなどの強盗・恐喝事件	23.9	27.8	56.6
バイクや自転車などでひったくりをする	18.7	24.6	53.3
いじめの問題	35.0	38.7	51.1
暴走行為をする	20.6	24.9	45.1
バイクや自転車などを盗む	18.9	20.1	42.3
刃物などを持ち歩く	19.9	25.5	40.1
家庭内暴力など、家庭内での非行	20.9	24.0	38.5
不登校の問題	19.7	25.4	34.1
飲酒・喫煙などの不良行為	24.9	21.9	30.8
校内暴力の問題	15.3	17.3	29.1
家出の問題	11.1	13.9	26.9
その他	0.3	1.1	6.0
特にない	3.2	2.5	0.0
わからない	6.2	4.0	0.5
平均回答項目数	3.8	4.3	7.0

注 複数回答可。数値は、調査対象者数に対する割合 (%) である。

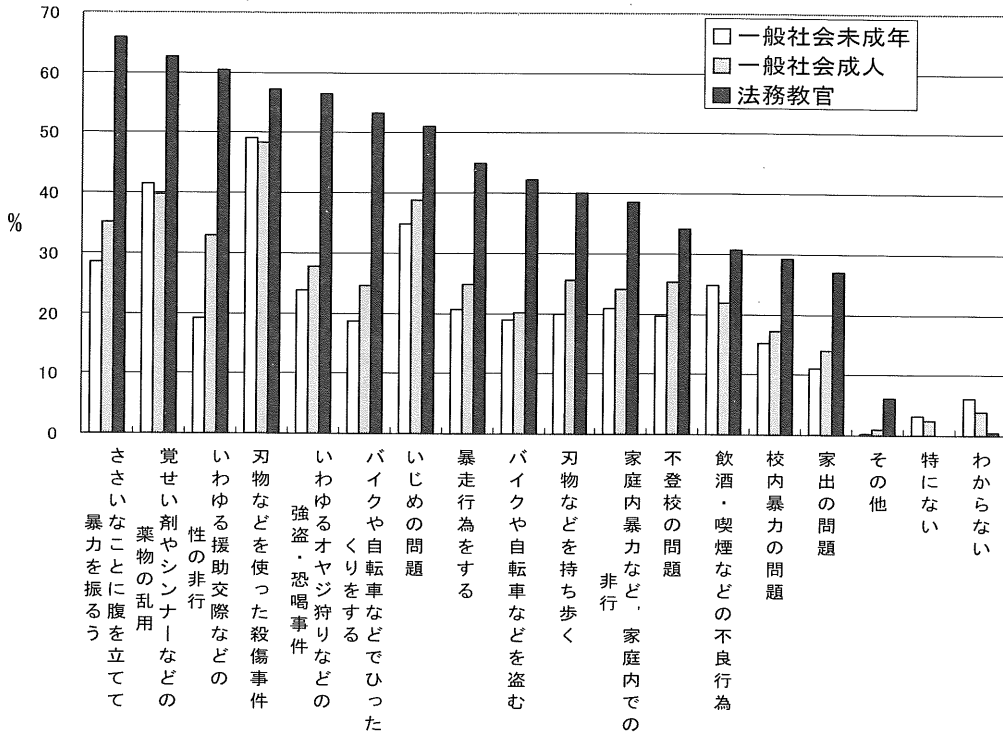


図5 社会的にみて問題だと思う非行

表8 非行の大きな原因

	一般社会未成年	一般社会成人	法務教官
家庭環境	63.5	74.3	88.5
本人自身の性格や資質	36.3	41.4	57.1
社会環境 (社会の風潮, 政治など)	22.6	36.2	54.4
友人環境	27.5	32.1	48.4
地域社会	9.6	18.8	35.7
学校生活	25.3	17.9	22.5
その他	0.2	0.5	8.2
一概に言えない	2.5	2.6	8.2
わからない	2.3	1.1	0.5
平均回答項目数	1.9	2.2	3.2

注 複数回答可。数値は、調査対象者数に対する割合 (%) である。

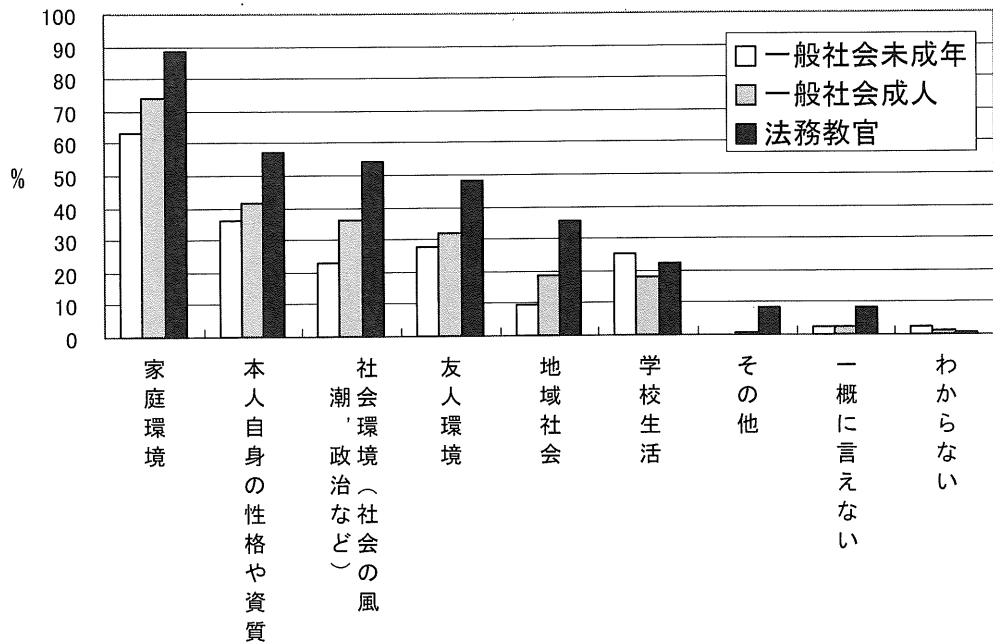


図6 非行の大きな原因

表9 少年自身の問題

	一般社会未成年	一般社会成人	法務教官
忍耐力がなく、我慢ができない	36.1	62.9	64.8
自己中心的である	40.4	55.1	64.8
自分の感情をうまくコントロールできない	40.2	47.3	64.3
人の痛みを感じない	32.6	48.8	62.6
社会道徳、規範意識(モラル)に欠けている	16.9	36.2	61.0
主体性がなく、友人など周囲の考えに安易に同調する	13.3	22.7	47.3
生きがいや目標がない	22.5	32.1	41.8
甘えの気持ち強い	17.2	37.2	41.2
自分の気持ちをうまく伝えられない	21.3	24.1	40.7
人付き合いがうまくできない	23.1	27.9	24.2
コンプレックス、劣等感が強い	8.8	13.9	20.3
投げやりな態度である	14.9	20.2	18.7
スリルを求めている	13.5	14.1	11.0
反抗心が強い	16.1	14.6	9.3
その他	0.2	0.8	7.1
特にない	2.6	1.2	0.0
わからない	2.7	1.8	1.1
平均回答項目数	3.2	4.6	5.8

注 複数回答可。数値は、調査対象者数に対する割合 (%) である。

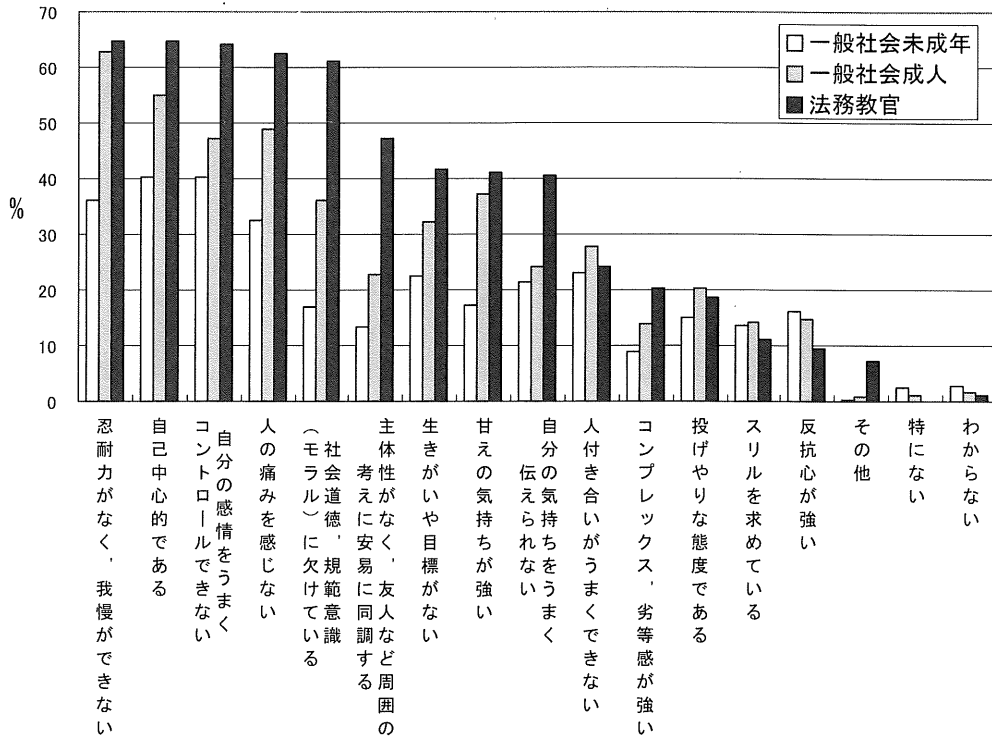


図7 少年自身の問題

表10 社会環境の問題

	一般社会未成年	一般社会成人	法務教官
テレホンクラブ・ツーショットダイヤル・出会い系サイトなどの氾濫	32.6	48.5	59.3
暴力や性に関する情報を扱ったビデオ・出版物の氾濫	23.2	42.9	52.2
携帯電話の普及	22.4	44.2	47.3
コンビニエンスストア、カラオケボックスなどが深夜まで営業している	15.3	38.9	40.1
少年でも簡単に刃物などを手に入れられる環境である	41.6	27.6	28.6
少年が利用できる施設や活動の場が少ない	15.8	20.0	28.0
スナック、ディスコ、カラオケボックス、ゲームセンターなどが多い	13.7	27.2	22.0
インターネットの普及	10.3	18.1	18.7
酒、タバコなどの自動販売機が多い	29.2	31.7	17.0
放置自転車が氾濫している	12.2	12.8	9.3
スーパーマーケットでの監視がゆるい	5.4	5.3	0.0
その他	0.5	1.6	16.5
特にな	5.5	2.8	1.1
わからない	3.4	2.7	0.5
平均回答項目数	2.3	3.2	3.4

注 複数回答可。数値は、調査対象者数に対する割合 (%) である。

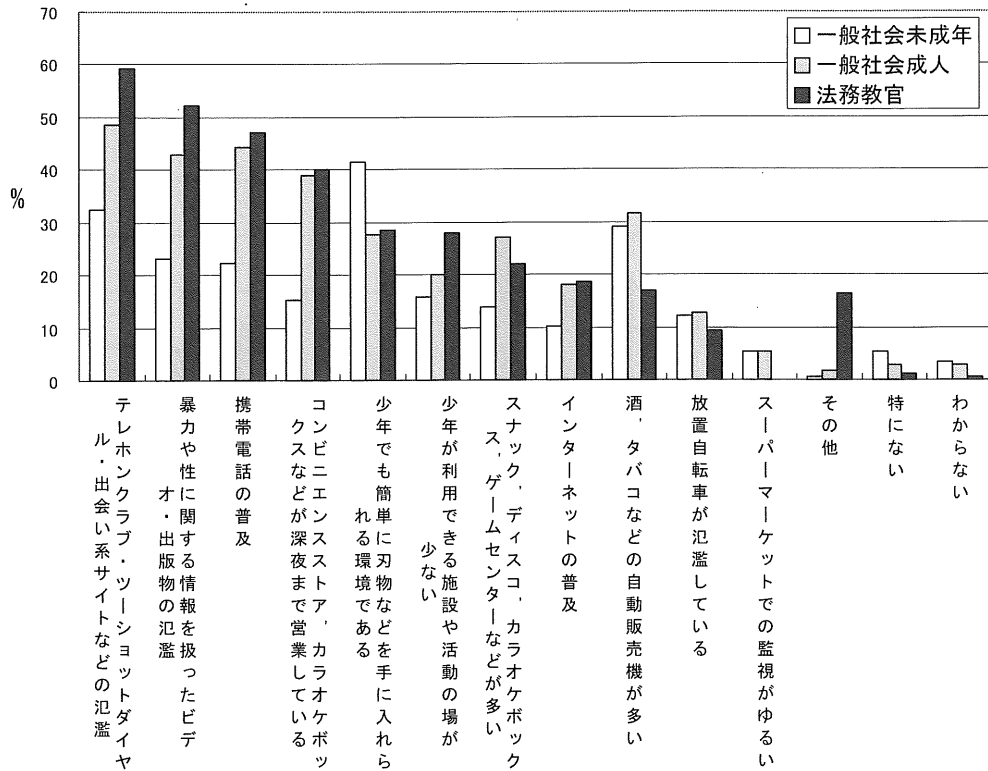


図8 社会環境の問題

表11 社会風潮の問題

	一般社会未成年	一般社会成人	法務教官
家庭の教育力が相対的に低下する傾向にある	17.0	32.3	69.8
社会全般の規範意識（モラル）が低下している	21.0	49.1	67.0
社会全般に心の豊かさや思いやりの心が失われている	24.2	41.7	57.1
少年を育てようとする気風や機会が大人に不足している	25.4	35.8	52.2
他人の子どもに無関心である	24.0	44.4	50.5
夢や希望を持ちにくい社会である	26.1	29.2	35.7
地域の人が少年に無関心になっている	12.3	25.9	35.2
学校生活になじめない少年の居場所がない	24.2	18.7	29.1
社会全般が少年を甘やかす傾向にある	12.8	23.0	26.4
薬物や売春などに対して、あまり厳しくない社会である	22.0	24.1	23.1
学歴偏重社会である	21.5	21.0	17.0
雇用者の長時間の労働が、少年に関心を持つ余裕をなくしている	5.6	10.5	11.5
その他	0.2	1.1	10.4
特にない	4.7	0.9	0.0
わからない	7.7	2.6	0.5
平均回答項目数	2.5	3.6	4.9

注 複数回答可。数値は調査対象者数に対する割合（%）である。

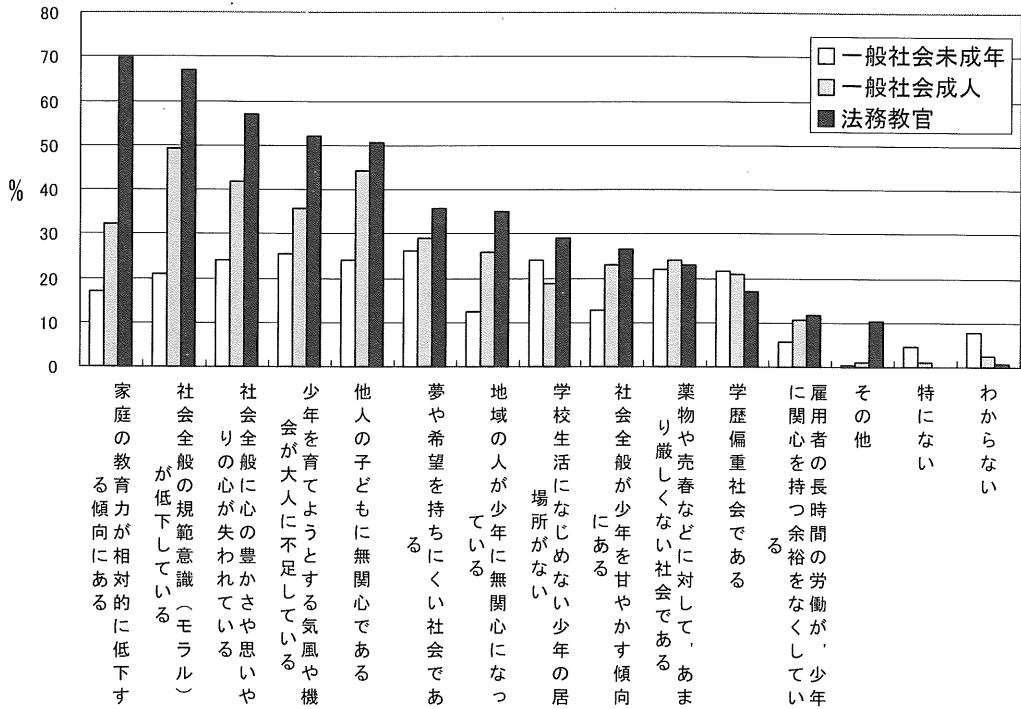


図9 社会風潮の問題

(2) 結果と考察

以下、世論調査の傾向と、法務教官の見方が相対的に異なる部分を中心に検討する。なお、調査時期の違いが結果に影響している部分もあると思われるので、その点に留意する必要がある。

① 少年非行の増加

法務教官は、「ある程度増えている」が最も多かったが、一般社会成人は、「かなり増えている」が最も多かった。法務教官の結果は、一般社会成人よりも一般社会未成年に似た傾向であった。

② 増加している非行

本問以降の設問は、複数回答可となっているが、法務教官は、全ての設問で、回答した項目の平均値が最も多い点の特徴である。

増加している非行については、「突然キレて行う非行」は、法務教官の回答の割合が低い傾向が見られた。

③ 凶悪事件を起こす特徴の経緯

法務教官は、一般の人よりも、家庭環境の問題や友人関係の問題を重視する傾向が見られた。

## ④ 実際に身の回りで問題になっている非行

「ささいなことで腹を立てて暴力を振るう」、「バイクや自転車などを盗む」、「暴走行為をする」などの項目については、法務教官の問題意識が相対的に強く、逆に、飲酒・喫煙などの不良行為、不登校の問題、いじめの問題などは、一般人、特に未成年の問題意識が強い。

## ⑤ 社会的に見て問題だと思ふ非行

法務教官の問題意識が相対的に強い項目としては、「ささいなことに腹を立てて暴力を振るう」、覚せい剤やシンナーなどの薬物の乱用、「いわゆる援助交際などの性の非行」、「いわゆるオヤジ狩りなどの強盗・恐喝事件」、「バイクや自転車などでひったくりをする」などが挙げられる。

## ⑥ 非行の大きな原因

世論調査との大きな違いは見出せない。

## ⑦ 少年自身の問題

法務教官の問題意識が相対的に低いのは、「忍耐力がなく、我慢ができない」、「甘えの気持ちは強い」、「人付き合いがうまくできない」などであり、逆に、法務教官の問題意識が高いものとしては、「主体性がなく、友人など周囲の考えに安易に同調する」、「社会道徳、規範意識（モラル）に欠けている」が挙げられる。

## ⑧ 社会環境の問題

法務教官の問題意識が相対的に低いものとして、「少年でも簡単に刃物を手に入れられる環境である」、「酒、タバコなどの自動販売機が多い」などがある。

## ⑨ 社会風潮の問題

法務教官の問題意識が高いものとして、「家庭の教育力が相対的に低下する傾向にある」が挙げられる。反対に、法務教官の問題意識が低い項目には、「薬物や売春などに対してあまり厳しくない社会である」、「学歴偏重社会である他人の子どもに無関心である」、「夢や希望を持ちにくい社会である」といった項目がある。

## ⑩ まとめ

まず、全体的に見ると、法務教官の少年非行問題等に関する見方の傾向は、世論調査の傾向と大きく異なるものではないと言えるだろう。「突然キレる非行」、「刃物を用いた非行」などについては、特定の事件の影響があると思われる、調査時期が遅く、社会の注目度も下がっている分、法務教官の回答の割合が低下した部分もあると考えられる。

ただし、このような調査時期による違いの影響などを差し引いても、ある程度の見方の違いは存在しているように思われる。法務教官は、一般人よりも、集団非行の増加や友人への安易な同調傾向、ささいなことで腹を立てること、家庭環境の



問題といった点を、一般の人よりも問題視していると言えるが、これらは、実際に非行少年に日々接する中で、資質的な側面や、彼らの家庭環境に着目することに起因していると考えられる。また、調査方法の違いからくる面もあると思われるが、全体的に平均回答数が多かったことは、多くの非行少年に接していることから、職務上その一人一人をよく見ているだけ多くの問題点を意識していることによると思われる。

一方、一般の人は、全般的に、身近な青少年の問題か、逆に大きな社会問題という観点から非行少年や非行問題をとらえる傾向があるように思われる。

## 2 収容少年の非行少年像について：調査票(B)

### (1) 特性形容詞尺度

林 (1978) は、特性形容詞尺度の因子分析により、「個人的親しみやすさ」、「社会的望ましさ」、「活動性 (力本性)」という対人認知の基本 3 次元を抽出している。今回の結果についても、7 段階の評定値を 1 点から 7 点までに得点化し、3 因子の因子分析 (主因子法・バリマックス回転) を行ったところ、林 (1978) と同様の因子が抽出された。

その結果は、表12 (少年鑑別所入所時)、表13 (少年院入院時)、表14 (少年院出院時) のとおりである。

表12 特性形容詞尺度の因子分析結果 (少年鑑別所入所時)

	個人的親しみやすさ	社会的望ましさ	活動性(力本性)
感じの悪い-感じのよい	-.80	-.10	-.01
親しみやすい-親しみにくい	.75	-.16	-.21
にこらしい-かわいらしい	-.74	-.15	.03
ひとつっこい-近づきたい	.62	.04	-.06
心のひろい-心のせまい	.61	.21	-.17
人のわるい-人のよい	-.61	-.06	-.07
沈んだ-うきうきした	-.42	.32	.08
不親切な-親切な	-.39	-.03	.21
堂々とした-卑屈な	.36	.05	-.18
気長な-短気な	.10	.66	.06
分別のある-無分別な	.00	.61	-.14
責任感のある-責任感のない	.20	.57	-.13
恥しらずの-恥ずかしがりの	.12	-.57	.04
重厚な-軽率な	.09	.56	-.11
軽率な-慎重な	-.02	-.51	.15
なまいきでない-なまいきな	.43	.48	-.08
無気力な-意欲的な	-.06	-.06	.85
自信のない-自信のある	-.16	-.09	.58
非社交的な-社交的な	.00	-.17	.46
積極的な-消極的な	.25	.08	-.37
固有値	4.76	2.93	1.82
寄与率(%)	18.40	12.56	8.26

主因子法・バリマックス回転

表13 特性形容詞尺度の因子分析結果 (少年院入院時)

	社会的望ましさ	活動性(力本性)	個人的親しみやすさ
重厚な-軽率な	.79	.18	-.06
軽率な-慎重な	-.71	-.09	.13
分別のある-無分別な	.60	.36	-.12
恥しらずの-恥ずかしがりの	-.60	.10	.27
気長な-短気な	.55	.08	-.19
心のひろい-心のせまい	.55	.36	-.25
なまいきでない-なまいきな	.52	-.04	-.43
不親切な-親切な	-.49	-.33	.33
無気力な-意欲的な	-.23	-.60	.32
自信のない-自信のある	-.13	-.59	-.02
積極的な-消極的な	.17	.58	-.24
堂々とした-卑屈な	.13	.48	-.10
沈んだ-うきうきした	.11	-.45	.06
責任感のある-責任感のない	.44	.44	-.11
非社会的な-社会的な	-.09	-.44	.25
親しみやすい-親しみにくい	.17	.32	-.68
にくらしい-かわいらしい	-.35	-.06	.62
感じの悪い-感じのよい	-.45	-.33	.53
ひとなつっこい-近づきがたい	.04	.26	-.52
人のわるい-人のよい	-.36	-.11	.49
固有値	6.84	2.09	1.44
寄与率(%)	18.78	12.87	11.97

主因子法・バリマックス回転

表14 特性形容詞尺度の因子分析結果 (少年院出院時)

	社会的望ましさ	個人的親しみやすさ	活動性(力本性)
軽率な-慎重な	.72	-.30	-.15
自信のない-自信のある	.64	-.34	.11
無気力な-意欲的な	.63	-.55	.05
重厚な-軽率な	-.61	.24	.29
分別のある-無分別な	-.54	.36	-.07
堂々とした-卑屈な	-.54	.44	.04
心のひろい-心のせまい	-.53	.45	.04
責任感のある-責任感のない	-.52	.36	-.02
にくらしい-かわいらしい	.51	-.39	-.06
気長な-短気な	-.46	.35	.15
恥しらずの-恥ずかしがりの	.43	-.21	-.21
ひとなつっこい-近づきがたい	-.28	.69	.02
親しみやすい-親しみにくい	-.36	.68	-.16
不親切な-親切な	.50	-.66	-.12
感じの悪い-感じのよい	.45	-.62	-.17
人のわるい-人のよい	.41	-.58	-.36
非社会的な-社会的な	.45	-.57	.12
積極的な-消極的な	-.33	.56	.15
なまいきでない-なまいきな	-.30	.35	.50
沈んだ-うきうきした	.05	-.09	.40
固有値	9.20	1.34	0.98
寄与率(%)	23.56	22.00	4.18

主因子法・バリマックス回転

少年鑑別所入所時と少年院入院時の結果は、比較的似ているが、少年院出院時に関しては、社会的望ましさの因子に高い因子負荷量を示す項目が集中する傾向が見られた。これは、回答が特定の評定段階に集中する項目が多かったことによると思われる。評定段階をもう少し広く設定しておけば、項目の集中を防ぐことができたかもしれない。

次に、各因子の因子得点を算出した（表15、図10）。算出方法は、以下のとおりである。

表15 特性形容詞尺度の各因子の因子得点

	少年鑑別所入所時	少年院入院時	少年院出院時
個人的親しみやすさ	4.04 (0.64)	3.86 (0.74)	5.15 (0.74)
社会的望ましさ	3.20 (0.68)	3.16 (0.84)	4.41 (0.68)
活動性(力本性)	3.23 (0.68)	3.07 (0.81)	5.08 (0.78)

注 カッコ内は、SDである。

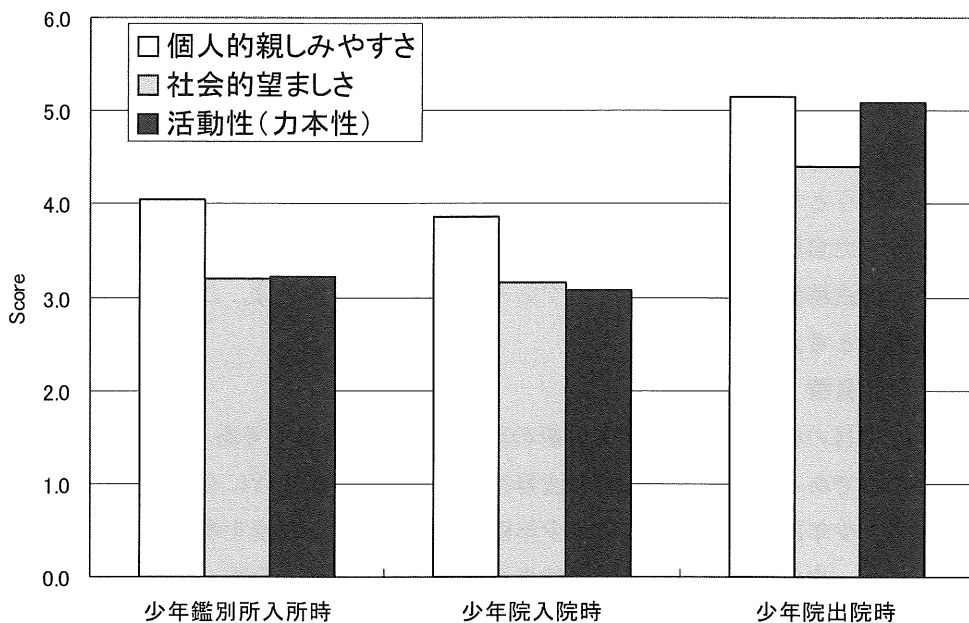


図10 特性形容詞尺度の各因子の因子得点

少年鑑別所入所時と少年院入院時の因子分析結果（表12、表13）を比較すると、各因子に含まれる（最も高い因子負荷量を示す）項目には若干の違いが見られるため、両群に共通して含まれる項目を選択し、その平均値を因子得点とすることとした。具体的には、「個人的親しみやすさ」の因子得点は、項目2、4、5、14、16

の平均、「社会的望ましさ」の因子得点は、項目3, 9, 10, 11, 15, 19の平均、「活動性(力本性)」の因子得点は、項目1, 7, 17, 18の平均となっている。また、結果の比較のために、少年院出院時の因子得点も、同じ項目の平均値とした。

ここで、因子ごとに、少年鑑別所入所時と少年院入院時の差を調べた。すべての因子で、有意差は認められなかった(個人的親しみやすさ： $t=1.76$ , n.s., 社会的望ましさ： $t=0.38$ , n.s., 活動性(力本性)： $t=1.45$ , n.s.)。少年鑑別所入所時と少年院入院時の平均的イメージに大きな差はないということである。

次に、因子ごとに、少年院入院時と出院時の差を検討した。3要因全てにおいて、有意差が認められた(個人的親しみやすさ： $t=19.75$ ,  $p<.01$ , 社会的望ましさ： $t=16.96$ ,  $p<.01$ , 活動性(力本性)： $t=25.37$ ,  $p<.01$ )。すなわち、法務教官から見た収容少年のイメージは、少年院出院時に、林(1978)の基本3因子のすべてにおいて、ポジティブな方向に変化しており、これは、少年院における教育の効果の表れと見てよいであろう。

小澤(2003)は、少年院における少年の変化について、「立ち直る少年たちと接していると、彼らの態度や雰囲気から共通した印象を受けることに気が付きます。静かで落ち着いた慎重な態度、何事にも積極的に取り組み、自分自身を意識的に改善向上させようとする強い意欲、他者への思いやりと気配り、礼儀正しさ、強い責任感、現実から決して目を背けることなく、被害者も含め他者と積極的にかかわっていかうとする姿勢などです。そして、それらの行動や態度には、共通して謙虚さを伴った自信に満ちているのを感じます。」と記述しており、このような印象は、多くの法務教官に共通するものであろう。本研究の結果は、こうした印象に一致するものと考えられる。

## (2) 教育目標

30項目の教育目標に関する分析の結果は、次のとおりである。「方法」で述べたところであるが、少年鑑別所の法務教官には、少年鑑別所に在所している少年の現状を、少年院の法務教官には、少年院在院中の変化の程度を尋ねたものである。

まず、少年院職員用調査票の結果を先に述べる。因子分析(主因子法・バリマックス回転)を行ったところ、4因子が抽出された(表16)。第1因子は自己抑制、第2因子は非行の反省、第3因子は自信・意欲、第4因子は技能・学力・体力と解釈した。各項目の内容は教育目標であり、また、生活指導領域に含まれるものが多いので、当然ながら、各因子も少年院における教育の領域に対応したものとなっている、4因子中3因子が生活指導の領域に属するものとなった。

表16 教育目標の因子分析結果（少年院）

	自己抑制	非行の反省	自信・意欲	技能・学力・体力
うそを付いたりごまかしたりしないようになる	.65	.22	.06	.01
感情的にならず、冷静に問題に対処できるようになる	.63	.21	.13	.08
嫌なことやつらいことから逃避せず、粘り強く物事に取り組めるようになる	.61	.19	.26	.14
節度ある行動が取れるようになる	.58	.18	.38	.16
わがままを抑えられるようになる	.57	.31	.04	.07
前向きな気持ちで物事に取り組めるようになる	.56	.29	.13	.23
決まりの大切さを理解するようになる	.55	.22	.29	.11
集中力が養われる	.55	.12	.17	.32
見えや虚勢を張らなくなる	.54	.21	.19	.15
物事の善悪を適切に見極めることができるようになる	.51	.28	.25	.19
周りの雰囲気流されないようになる	.48	.26	.27	.13
自分の言動が周囲に及ぼす影響を認識できるようになる	.44	.40	.21	.12
自分の考えを適切に表現できるようになる	.41	.29	.18	.14
被害者に対する謝罪の気持ちが深まる	.19	.78	.18	.14
本件非行の重大性を認識できるようになる	.33	.75	.05	.19
反社会的集団、暴力、薬物、不良交友、異性関係などの個別的問題点についての理解が深まる	.38	.69	.16	.17
自分の問題点に向き合えるようになる	.33	.62	.32	.12
不良交友を断ち切る決意を持つようになる	.34	.58	.20	.16
自分の非行が家族に与えた影響を正しく理解するようになる	.26	.57	.26	.17
家族に対する感情を整理できるようになる	.26	.52	.32	.13
堅実で具体的な生活設計を立てられるようになる	.29	.49	.24	.34
社会人としての心構えができてくる	.31	.47	.42	.28
社会生活への意欲や希望が持てるようになる	.16	.43	.53	.24
自信を持って行動するようになる	.43	.29	.53	.27
責任感が身に付いてくる	.42	.28	.52	.16
周囲の人と協調できるようになる	.47	.30	.48	.19
他人に対する信頼感を持つようになる	.43	.32	.46	.10
学力が向上してくる	.13	.20	.01	.83
職業生活に必要な意識、知識、技能等が身に付いてくる	.07	.33	.27	.52
体力が向上してくる	.21	.09	.18	.49
固有値	12.80	1.81	1.41	1.06
寄与率(%)	18.69	16.50	8.69	6.95

主因子法・バリマックス回転

次に、少年鑑別所の因子分析の結果であるが、当初、固有値1.0以上の因子を抽出したところ、9因子が抽出された。そこで、少年院の結果との対比させることを考慮して、因子数を少年院と同じ4に指定して再度因子分析を行ったところ、比較

的安定した解が得られた(表17)。内容的にも、おおむね少年院のデータの因子分析で得られた結果に対応すると考えられたため、各因子には、少年院と同じ名前を付けた。

表17 教育目標の因子分析結果(少年鑑別所)

	非行の 反省	自己抑制	自信・ 意欲	技能・学 力・体力
本件非行の重大性を認識している	.79	.20	.17	.08
被害者に対する謝罪の気持ちが深まっている	.76	.05	.10	.02
自分の問題点に向き合える	.74	.14	.20	-.05
不良交友を断ち切る決意を持っている	.73	-.05	.01	.14
反社会的集団、暴力、薬物、不良交友、異性関係などの個別的問題点について理解できている	.73	.23	.08	.17
自分の非行が家族に与えた影響を正しく理解している	.67	.09	.27	-.04
家族に対する感情を整理できる	.52	.23	.05	.16
集中力がある	.42	.18	.30	.18
周りの雰囲気流されない	.34	.25	.15	.06
感情的にならず、冷静に問題に対処できる	.13	.78	.01	.00
わがままを抑えられる	.15	.73	.08	.20
嫌なことやつらいことから逃避せず、粘り強く物事に取り組める	.23	.64	.19	.38
見えや虚勢を張らない	-.03	.63	.13	-.03
うそを付いたりごまかしたりしない	.26	.61	-.02	.11
責任感がある	.20	.59	.16	.23
前向きな気持ちで物事にに取り組める	.04	.51	.38	.08
自分の言動が周囲に及ぼす影響を認識できる	.26	.32	.22	.06
節度ある行動が取れる	.08	.22	.68	-.12
物事の善悪を適切に見極めることができる	.28	.16	.60	.09
決まりの大切さを理解している	.37	.24	.57	-.02
他人に対する信頼感を持っている	.03	.20	.52	.15
社会生活への意欲や希望を持っている	.30	-.02	.43	.12
自信を持って行動する	.02	-.16	.41	.18
周囲の人と協調できる	.21	.27	.37	.14
職業生活に必要な意識、知識、技能等が身に付いている	.04	.10	.17	.76
学力がある	.04	.00	-.12	.68
堅実で具体的な生活設計を立てている	.27	.04	.21	.66
社会人としての心構えができている	.27	.11	.33	.56
自分の考えを適切に表現できる	.07	.17	.09	.35
体力がある	-.04	.08	.00	.35
固有値	8.17	2.82	2.41	2.04
寄与率(%)	15.31	12.10	8.88	8.38

主因子法・バリマックス回転

ここで、少年院と少年鑑別所の因子分析結果において、共通して同じ因子に高い因子負荷量を示す項目を選び、その平均値を求めて因子得点とした。具体的には、自己抑制の因子は、項目5, 6, 7, 8, 9, 10, 13, 非行の反省の因子は、項目17, 18, 26, 27, 28, 29, 30, 自信・意欲の因子は、15, 16, 19, 21, 技能・学力・体力の因子は、項目20, 24, 25である。表18及び図11は少年鑑別所の結果、また、表19及び図12は少年院の結果である。

表18 教育目標各因子の因子得点 (少年鑑別所)

	少年鑑別所
自己抑制	3.59 (0.72)
非行の反省	3.75 (0.59)
自信・意欲	3.41 (0.56)
技能・学力・体力	4.01 (0.63)

注 カッコ内はSDである。

表19 教育目標各因子の因子得点 (少年院)

	少年院
自己抑制	2.58 (0.56)
非行の反省	2.41 (0.49)
自信・意欲	2.44 (0.58)
技能・学力・体力	2.78 (0.62)

注 カッコ内はSDである。

少年鑑別所について、各因子得点の高低を検討するため、一要因の分散分析を行った結果、主効果が有意であり ( $F(3, 268) = 11.28, p < .01$ )、事後比較 (Bonferroni) の結果、「技能・学力・体力」, 「自己抑制」 > 「非行の反省」, 「自信・意欲」 (>は有意差を示す。) という結果が得られた。

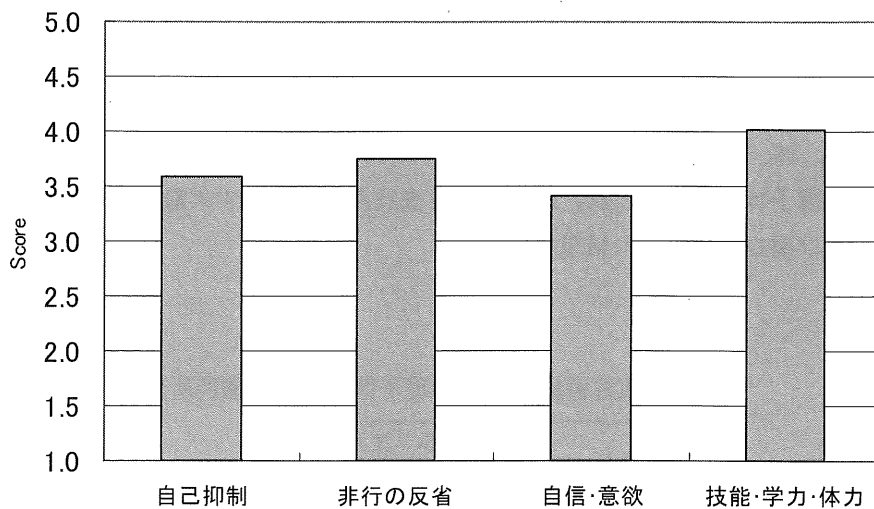


図11 教育目標各因子の因子得点（少年鑑別所における現状）

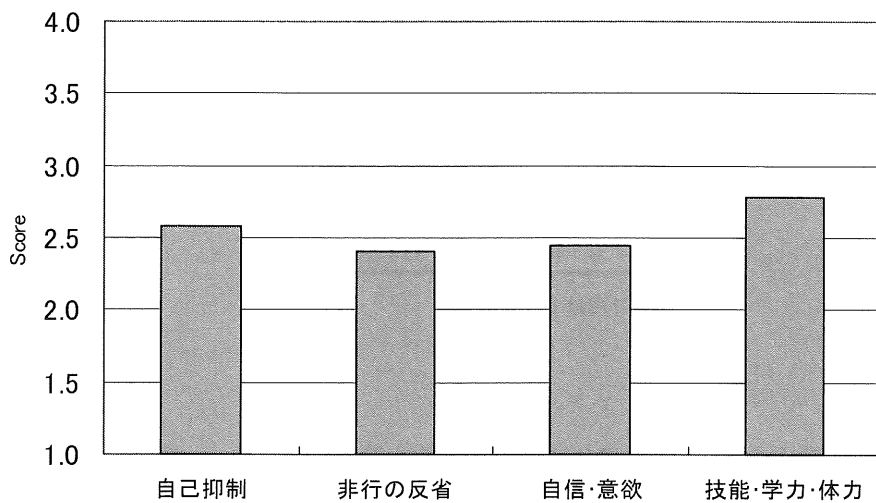


図12 教育目標各因子の因子得点（少年院における成長）



また、少年院についても同様の分散分析を行ったが、主効果が有意であり ( $F(3, 792) = 17.52, p < .01$ )、事後比較 (Bonferroni) の結果、「技能・学力・体力」> 「自己抑制」> 「非行の反省」, 「自信・意欲」の順に得点が高いことが分かった。

少年鑑別所は、少年院よりも非行性が進んでいない少年が多いことが、「技能・学力・体力」因子や「非行の反省」因子の得点の高さに反映されているのではないかと思われる。また、少年院の結果については、法務教官は、教育による「技能・能力・体力」や「自己抑制」因子の伸び幅が大きいと見ているが、「非行の反省」, 「自信・意欲」は、前2因子に比べると教育の効果が現れにくいという印象を持っており、それだけ指導が困難な領域であるという認識を持っていると解釈できるだろう。

### (3) 特性形容詞尺度と教育目標の関連

特性形容詞尺度の3因子と教育目標の4因子の関連を検討するため、少年院については、特性形容詞尺度の各因子得点の差 (出院時 - 入院時) と、教育目標の因子得点の相関係数を、少年鑑別所については、そのまま各因子得点間の相関係数をそれぞれ求めた。

しかし、少年鑑別所、少年院のいずれにおいても、全体的に相関係数は高くなかった (絶対値が.50以上の関係は見られなかった)。この分析は、対人認知の基本次元におけるイメージ形成が、より具体的な各側面 (教育目標) の影響を受けている可能性を検討するために行ったものが、ここでの結果は、両者がある程度独立したものであることを示唆するものとなった。

## 3 法務教官としての少年に対する期待 (調査票Bの自由記述)

「法務教官の非行少年像に関する調査(B)」の最後 (少年鑑別所は「問7」、少年院は「問8」) に、「あなたは、法務教官として、少年に対して今後どのように成長してほしいという希望を持っていますか。具体的なこと、抽象的なこと、どんなことでも構いませんので、自由に記述してください」という質問によって、少年の将来に対する希望、期待、激励、説示、指導、助言、注意等が記述されることを想定した自由記述欄を設けた。

本項は、その内容を分析することを目的としている。

### (1) 結果

表20「回答職員の年代別状況」は、本問に回答した少年鑑別所及び少年院職員の年代別の状況である。

回答者数は、少年鑑別所65人 (うち、女子4人)、少年院181人 (同28人)、計246人 (同32人) であり、全体の平均年齢は39.2歳、平均勤務年数は14.4年である。

表20 回答職員の年代別状況

区 分	年 代	人 数	構 成 比	平 均		
				年 齢	勤続年数	回答項目数
少年鑑別所	50歳以上	15 (0)	23.1	54.8	31.1	1.5
	40歳代	26 (1)	40.0	43.2	18.9	1.7
	30歳代	20 (2)	30.8	33.5	9.5	1.2
	20歳代	4 (1)	6.1	28.3	3.0	1.5
	小 計	65 (4)	100.0	42.0	17.8	1.5
少 年 院	50歳以上	26 (4)	14.3	54.6	30.0	2.3
	40歳代	47 (5)	26.0	44.5	19.0	1.6
	30歳代	68(11)	37.6	33.5	8.5	2.0
	20歳代	40 (8)	22.1	27.0	2.7	1.9
	小 計	181(28)	100.0	37.9	13.2	1.9
計	50歳以上	41 (4)	16.7	54.7	30.4	2.0
	40歳代	73 (6)	29.7	44.0	19.0	1.6
	30歳代	88(13)	35.8	33.5	8.7	1.8
	20歳代	44 (9)	17.8	27.1	2.7	1.9
	合 計	246(32)	100.0	39.2	14.4	1.8

注 「人数」欄のカッコ内の数は、女子職員の再掲である。

なお、本表中の「項目」とは、「少年に対して今後どのように成長してほしいという希望を持っていますか」という質問の回答として自由に記述された内容において、箇条書きで回答されたものについては「記述内容」を、また、短文形式で回答されたものについては「主意内容」をまとめたもの（いずれの場合も回答者一人で複数になることがある。）であり、その全体的な状況は、「少年鑑別所法務教官としての少年に対する希望（一覧）」（資料1-1）及び「少年院法務教官としての少年に対する希望（一覧）」（資料1-2）のとおりである。

これを整理した項目数（一人当たりの平均）は、少年鑑別所は96（1.5）、少年院は345（1.9）、全体では441（1.8）であった。

表21「法務教官としての少年に対する希望」は、少年鑑別所及び少年院の別に項目を整理した表であるが、その分類及び区分は、前記一覧における少年鑑別所の「0001から0096まで」、また、少年院の「0001から0345まで」の4桁の数字を付した各項目を小項目とし、次いで、各小項目を内容の共通性・類似性ごとにまとめたものに3桁の数字を付して中項目とし、さらに、各中項目を内容の共通性・類似性ごとにまとめたものに2桁の数字を付して大項目とすることによっている。

表21 法務教官としての少年に対する希望

少年鑑別所			少年院		
項目	項目数	(%)	項目	項目数	(%)
01 少年鑑別所へ入所したことを反省し、立直りの契機にしてほしい	3	(3.1)	01 少年院へ入院したことを反省し、立直りの契機にしてほしい	9	(2.6)
02 再び非行をしてほしくない	7	(7.3)	02 再び非行をしてほしくない	20	(5.8)
03 法令を守って生活してほしい	6	(6.3)	03 法令を守って生活してほしい	3	(0.9)
04 共感性のある人になってほしい	22	(22.9)	04 共感性のある人になってほしい	60	(17.4)
041 相手の気持が分かる人になってほしい	8		041 相手の気持が分かる人になってほしい	12	
042 他人への思いやりのできる人になってほしい	4		042 他人への思いやりのできる人になってほしい	8	
043 他人の痛みが分かる人になってほしい	6		043 他人の痛みが分かる人になってほしい	5	
			044 他人に迷惑をかけない人になってほしい	16	
			045 他人を傷つけない人になってほしい	6	
046 被害者の気持が分かる人になってほしい	4		046 被害者に誠実に対応してほしい	13	
05 自分の内面を見つめて成長してほしい	29	(30.2)	05 自分の内面を見つめて成長してほしい	67	(19.4)
051 周りの人たちと自分との位置づけを身に付けてほしい	10		051 周りの人たちと自分との位置づけを身に付けてほしい	8	
052 自分と向き合ってほしい	19		052 自分と向き合ってほしい	59	
06 自分を大切にしてほしい	9	(9.4)	06 自分を大切にしてほしい	23	(6.7)
07 友人関係を改めてほしい	5	(5.2)	07 友人関係を改めてほしい	3	(0.9)
08 家族関係を大切にしてほしい	3	(3.1)	08 家族関係を大切にしてほしい	9	(2.6)
			09 社会から受け入れられる行動ができるようになってほしい	75	(21.6)
			091 基本的な生活の仕方を身に付けてほしい	21	
			092 社会人として生活ができる人になってほしい	28	
			093 周りの人たちから信頼、信用される人になってほしい	6	
			094 人間として前向きな生き方をしてほしい	15	
			095 道しるべになる人に出会える努力をしてほしい	5	
			10 少年院で沢山のことを学習して身に付け、役立ててほしい	30	(8.7)
			11 忍耐力をつけてほしい	12	(3.5)
			12 幸福な家庭を築いてほしい	10	(2.9)
			13 感謝の気持を持ってほしい	6	(1.7)
			14 感情の表現ができるようになってほしい	5	(1.5)
			15 自信を持って行動するようになってほしい	5	(1.5)
16 仕事を大切にしてほしい	4	(4.2)			
17 知識を身に付けてほしい	3	(3.1)			
18 夢や希望を持って生きてほしい	5	(5.2)	18 夢や希望を持って生きてほしい	8	(2.3)
計	96	(100.0)	計	345	(100.0)

少年に対する希望の項目数の多い順を大項目によって見ると、少年鑑別所では、「05 自分の内面を見つめて成長してほしい (30.2%)」、「04 共感性のある人になってほしい (22.9%)」、「06 自分を大切にしてほしい (9.4%)」、「02 再び非行をしてほしくない (7.3%)」、「03 法令を守って生活してほしい (6.3%)」となっており、また、少年院では、「09 社会から受け入れられる行動ができるようになってほしい (21.6%)」、「05 自分の内面を見つめて成長してほしい (19.4%)」、「04 共感性のある人になってほしい (17.4%)」、「10 少年院で沢山のことを学習して身に付け、役立ててほしい (8.7%)」、「02 再び非行をしてほしくない (5.8%)」となっている。

少年鑑別所、少年院それぞれ独自の大項目としては、少年鑑別所では、「16 仕事を大切にしてほしい」、及び「17 知識を身に付けてほしい」が、また、少年院では、「09 社会から受け入れられる行動ができるようになってほしい」、「10 少年院で沢山のことを学習して身に付け、役立ててほしい」、「11 忍耐力をつけてほしい」、「12 幸福な家庭を築いてほしい」、「13 感謝の気持を持ってほしい」、「14 感情の表現ができるようになってほしい」、及び「15 自信を持って行動するようになってほしい」が設けられた。

中項目について見ると、まず、① 少年鑑別所では第1位、少年院では第2位の「05 自分の内面を見つめて成長してほしい」に、「051 周りの人たちと自分との位置づけを身に付けてほしい」と「052 自分と向き合ってほしい」が少年鑑別所、少年院ともに設けられ、次に、② 少年鑑別所では第2位、少年院では第3位の「04 共感性のある人になってほしい」に、中項目として「041 相手の気持が分かる人になってほしい」、「042 他人への思いやりのできる人になってほしい」、「043 他人の痛みが分かる人になってほしい」及び「046 被害者の気持が分かる人になってほしい (少年鑑別所) 被害者に誠実に対応してほしい (少年院)」が共通するものとして設けられた。なお、この大項目の中には、少年院独自の中項目として「044 他人に迷惑をかけない人になってほしい」と「045 他人を傷つけない人になってほしい」が設けられた。さらに、③ 少年院固有には、「09 社会から受け入れられる行動ができるようになってほしい」に、「091 基本的な生活の仕方を身に付けてほしい」、「092 会人として生活ができる人になってほしい」、「093 周りの人たちから信頼、信用される人になってほしい」、「094 人間として前向きの生き方をしてほしい」、及び「095 道しるべになる人に出会える努力をしてほしい」の5つが中項目として設けられた。

## (2) 考察

第1は、法務教官の少年に対する希望の全体的傾向についてである。

非行少年の収容や処遇において、対象者の資質を鑑別する少年鑑別所と、矯正教育を受ける少年院とでは、少年の法的な身分(地位)が異なっており、したがって、

少年鑑別所と少年院の法務教官の職務の内容としての少年との接し方の態様に違いがあって、当然に、職務意識における特徴がある。このことは、本問に対する回答の結果に明確に示されているところである。しかしながら、少年鑑別所法務教官と少年院法務教官の職務は、少年の健全育成を図ることにおいて共通しており、本問に対する基本的な答えとして、非行や犯罪があった対象少年に対して、「ものの考え方、ものの感じ方を変えてほしい」ということで、最終的に同じ希望が述べられており、それぞれの立場から「自分に対してはもちろん、これまでとは違って他人との関係においても、同じように変えてほしい」という希望につなげていることにおいても共通している。

これができるようになるためには、「これまでの生き方を反省する必要」があるが、この「反省には、自分を見つめることができるように心が発達している必要」があり、「少年院という教育場面でいろいろと学習することを経験、体験として積み、そのことを通して成長してほしい」という希望が圧倒的に多い。そして、少年鑑別所を退所し、あるいは少年院を出院した後は、「社会生活に必要な手本となる・模範となる・基準となる人との出会いを自らの力でつくるようにしてほしい」という指導者としての強い願いがある。

最終的に最も大きな希望は健やかに成長することであるが、そのためには、「この失敗をしっかりと見つめ、新しい生活をしていくために、自分を見捨てず、自分を信頼し、自分を大切に、夢や希望を持って力強く生きてほしい」という期待が、実際的に細部にわたる親身な指導や注意とともに、祈りに近いメッセージとなって送られている。

第2は、法務教官は、少年に、自分自身を成長させること、それを他人との協調や共同によって育んでいくことを強く希望していることについてである。

このことは、少年鑑別所では、「05 自分の内面を見つめて成長してほしい」という期待が30.2%で第1位、「04 共感性のある人になってほしい」が22.9%で第2位となっており、また、少年院では、「09 社会から受け入れられる行動ができるようになってほしい」の21.6%に続いてほぼ同数近くの割合で、「05 自分の内面を見つめて成長してほしい」が19.4%で第2位、「04 共感性のある人になってほしい」が17.4%で第3位となっていることに、この希望の大きさや強さが認められる。

なお、少年鑑別所では、「05 自分の内面を見つめて成長してほしい」、「04 共感性のある人になってほしい」の順であり、その合計が半数を超える53.1%である。一方、少年院も同じ順位であるが、その合計は36.8%である。この構成比上の特徴は、少年鑑別所と少年院の法務教官それぞれの職務内容の違いによるものと考えられる。

また、「04 共感性のある人になってほしい」には、先に確認したとおり、少年院の方は、「044 他人に迷惑をかけない人になってほしい」と「045 他人を傷つけない人になってほしい」の二つが、少年院独自の中項目として設定された。その具体的な期待内容として、前者は、「自分のしたことが元になって、相手や周りの人がとぼっちを受けたり、いやな思いをしたりすることがないようにすること」として、例えば、「0066 人に迷惑をかける行為は、その時々を考えなくとも、自然に抑えることができるようになってほしい」、「0071 素直さ、謙虚さ、冷静さなどをしっかり身に付け、他人に迷惑をかけない、自分の大切なものを守れる人間に、最低でも成長してほしい」等によって、また、後者は、「相手の感情やプライドに触るような言行をして、精神的な苦痛を与えないようにすること」として、例えば、「0077 自分や他人を傷つけない生き方をしてほしいと思う。ただその一点だけに全力を尽くしています」、「0078 今後二度と人を傷つけることなく、自分の人生を大切に、幸せなものにすることが、周囲の人々を幸せにすることに繋がることを知ること」が述べられている。これらは生活上の注意であるとともに、これからの生き方の大事な心構えであり、少年院での日常生活の実際場面における行動観察を通して、法務教官が感じていることを希望として託すものであると考えられる。

「04 共感性のある人になってほしい」には、少年鑑別所、少年院に共通して、「046」で「被害者等」との関係における希望が述べられている。この中項目の内容は、少年鑑別所では、「0035 被害者の気持が理解できる」、「0036 被害者にどんな迷惑をかけたかなど、本当に反省してほしい」、「0037 自分が行った非行のために、周囲の人（被害者だけでなく、被害者の家族、地域住民、自分の家族など）がどれだけの影響を受けたのかを、きちんと理解してほしい」、「0038 命の大切さを知る。人の命を奪うことがどんな理由であろうとも許されないことを理解する」であり、「被害者の気持ちが分かる人になってほしい」とカテゴリー化されると考えられる。これに対して、少年院の場合は、「0082 被害者の心の痛み、悲しさ、苦しさを理解できる人間になってほしい」、「0083 被害者への謝罪行動の喚起」、「0085 被害者に謝罪して、一生かけ罪を償ってほしい」、「0086 被害者に対しては、誠実に補償を行ってほしい」、「0089 『被害を受けた人の痛みは進行形であること』を、深く分かってほしい」、「0090 それとともに、犯罪によって今なお苦しんでいる多くの被害者がいるという事実にも目を向け、反省の気持ち、自分の言動に気をつけることを忘れず、『命あるものを労わる心』を育んでももらいたいと願っている」、「0091 社会一般の見方は、被害者への償い、謝罪があることによって、初めて更生の入り口なると考えており、自分とのズレを認識して生きていってほしい」等を内容として一層具体的なかたちで希望が述べられており、「被害者に誠実に対応してほし

い」というコンセプトでまとめられる。少年院に入院する前の非行行動に関する被害者との今後の関係等の在り方について、厳しい希望が寄せられている。こうした要求にも近い強い希望は、少年院で行っている被害者の視点を取り入れた教育や、被害者心情理解の講座や、個別の面接等において、法務教官が被害者のある非行を起こした少年を指導したときに見せる心情、態度、反応、考え方、決意等に接して、教官自身が痛感する出院後の立ち直りのための最も基本となる心構えを説示しているものと考えられる。

第3は、少年院の法務教官が希望する内容の特徴についてである。

少年院の法務教官は、通常、少年が入院してから出院するまで、短期処遇の場合では約5か月、また、長期処遇の場合では約12か月近くにわたっての間、収容したそれぞれの少年院での学習や生活を少年とともにし、しかも、その間、おおむね6日に一回の割合で夜間・休日の勤務に当たって起床から就寝まで、いわゆる寝食をともにした生活をしている。ここから滲み出てくる少年への希望や期待は、時に辛く、時に優しい。

矯正教育を行う少年院の教官として、小項目数が最も多い希望は、大項目「09 社会から受け入れられる行動ができるようになってほしい (21.6%)」にまとめられる。しかもその内容は、「091 基本的な生活の仕方を身に付けてほしい」、「092 社会人としても生活ができる人になってほしい」、「093 周りの人たちから信頼、信用される人になってほしい」、「094 人間として前向きの生き方をしてほしい」、「095 道しるべになる人に出会える努力をしてほしい」として見られるように、子細で、親切である。慈愛を旨とし、自らが手本となってきた指導態度からの希望や期待であると考えられる。

次に、「10 少年院で沢山のことを学習して身に付け、役立ててほしい (8.7%)」という希望は、少年院の法務教官が自らが従事した矯正教育に対する自己評価としても、また、少年への願いとしても受け止められる。これらには、まず、① その基本として、「0270 人の話を良く聞き、問題に直面した場面で冷静に対処して解決できる人」、「0274 集中力を持つということ」を求め、② 少年院生活で少しでも多くの達成感を味わうことを期待して、「0276 少年院生活は、人生における一過程であることを自覚し、少年院で得たものを手がかりに、社会生活適応をより良いものにしてほしい」と少年院生活を客観視させ、③ 具体的なこととして、「0279 少年院での集団生活で得られたことが多かったように、社会の中で自分らしく成長してほしい」、そして、「0283 少年院で身に付けたこと（身辺整理、規則正しい食習慣、体育、あいさつ、返事等）を日常生活で実践してほしい」と学ぶことの一つ一つが大事なことであると理解させ、「0286 職員との出会いや感

動的な体験を通して、自分の存在価値を発見したり、自分や他人を大切にできる人になってほしいと思う」,「0287 健全な集団生活や職員との関わりを通して、人としての在り方を学んでほしい」といい、④ そして、少年院で、「0288 生活の基本は何かということをしっかり学んだのだから、社会の現実に失望しないで、自分から、自分がやるという姿勢を持ち続けてほしいと思う」と方向付け、そこには、「0289 少年院に入院する前の自分と、出院後の自分について、客観的に判断できる力をもてるようになってほしい」と注意が必要なことを喚起し、「0291 少年院ですべてが解決するわけではないので、出院してからも問題や葛藤を抱えながらも、何とか生きていくだけの力や覚悟をもって生きていってもらいたい」,「0292 少年院を仮退院する際には高過ぎる目標を掲げてしまい、実際の生活で挫折してしまうことが多いので、実現可能な目標を設定し、努力することを継続してもらいたい」,「0293 少年院での処遇、更生は、本人が再び社会で適応するためのスキルアップに重点が置かれている（例えば、生活指導や職業補導）。それを経験したからといって、更生に励んだと錯覚して欲しくない」と細部にわたる注意を重ねて説示し、最後に、⑤ 「0297 少年たちにとって、『これだけやった。できたんだ』という実感、現実となり、厳しい社会の中で自分と戦う力の源であってほしい。自分と戦い続けることで、本当だと想う優しさや強さを知り、時の流れ、季節の色、香り、様々な人々の想いを少しでも多く感じ、そのまっとうな想いを実践して幸せになってほしいと思います。二度と人を、そして自分を傷つけないように。深く反省し、深い愛を感じてほしい」とエールを送っている。

これに続く「11 忍耐力を付けてほしい」,「12 幸福な家庭を築いてほしい」,「13 感謝の気持を持ってほしい」,「14 感情の表現ができるようになってほしい」,「15 自信を持って行動するようになってほしい」は、いずれも「10 少年院で沢山のことを学習して身に付け、役立ててほしい」において希望しているものから派生するものや、内容の一部をなすものであるが、これらは、少年院における教育場面や生活場面を見守ってきた法務教官が、少年の行動、態度を見て、木目細やかに指導し、あるいは、繰り返し、繰り返し指導していることを「出院後も忘れないでほしい」という願いとして、論じているものと考えられる。

## V 総合考察

少年非行像についての非行の実態、非行の原因に関して、内閣府で実施された「少年非行問題等に関する世論調査」でみられた社会一般の人と、法務教官との間には大きな相違は認められなかった。そこで、収容少年の非行少年像について各尺度から得られた



結果の考察と、自由記述に関する考察はそれぞれ述べたので、ここでは両者の関係について触れる。

教育目標を用いた尺度の分析結果では、少年院における少年の成長において、「非行の反省」と「自信・意欲」の因子の伸び率が比較的低いという結果が得られたが、このことは、法務教官はこの領域の指導は困難なものであると認識していると解釈した。

一方、自由記述の分析では、「自分の内面を見つめて成長してほしい」、「共感性のある人になってほしい」、「再び非行をしてほしくない」といった項目が、少年院と少年鑑別所に共通して多く見られた。

再び非行をしないと、内面の成長ということは、簡単にできることではないが、非常に重要な領域である。このような困難だが重要な領域に、法務教官の希望・期待がより多く集まっていることは、法務教官が、それだけ熱意を持って非行少年の教育に取り組んでいることを示していると考えられる。そうした熱意は、自由記述の「記述内容」、「主意内容」を見ても十分に理解できるし、また、教育機関である少年院の法務教官だけでなく、少年鑑別所の法務教官も、同様の熱意を持っていることが理解できるであろう。

また、本研究の結果では、領域ごとに差があるとは言え、少年の成長を感じることができており、出院時の印象も好ましい方向に大きく変わることが示されている。先に述べたような熱意を持ち続けることができるのも、教育的な働き掛けによる変化が実感できるからであると考えられる。

## Ⅵ おわりに

少年院や少年鑑別所の職員を始めとする関係者にとっては、本研究で得られた結果に特に目新しい点はないかも知れない。しかし、従前からこの種の研究がなかった中で、現に収容少年の処遇や教育に直接取り組んでいる者が、その対象者をどのようにとらえているかということはいくらかでも明らかにし、確認できたことは、少年矯正にかかわる業務にいささかの寄与があるものと思われる。

小澤（2003）は、少年たちに変化をもたらす要因として、少年院の職員との関係について触れ、「少年院での職員との出会いを通して、少年たちの中に新たな大人のモデルが形作られ、素直に指導を受け入れられるようになることで、立ち直りのきっかけになっていくようです。」と述べている。法務教官から見た非行少年像は、このような職員と少年の関係を、部分的にはあるが、職員の側からとらえたものと言えるかもしれない。このような少年と職員との関係は、矯正施設内のものであるだけに、なかなか一般には理解されにくいところがあるが、矯正施設における非行少年の処遇について、少しでも一般の理解が深まることを願うものである。

最後になりましたが、本調査に御協力を賜った法務省矯正局をはじめ、少年院、少年鑑別所の各位に、心からの謝意を表します。

## 引用文献

- 林 文俊 1978 対人認知構造の基本次元についての一考察 名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科), 25, 233 - 247
- 内閣府大臣官房政府広報室 2001 少年非行問題等に関する世論調査 (世論調査報告書 平成13年11月調査)
- 小澤直樹 2003 立ち直る少年たちが教えてくれるもの 刑政, 第114巻第7号, 16-24
- 泊 真児 2001 性格特性の Big Five モデルと対人認知次元 心理測定尺度集 I 堀洋道 (監修) 山本真理子 (編), サイエンス社, 134 - 135
- 津田通夫 1976 ロールシャッハ・テストよりみた非行少年像の推移について 犯罪心理学研究, 13 (特別), 17
- 矢島正美 1983 中学生にみる非行少年像 犯罪社会学研究, 8, 131 - 155

(資料1-1)

少年鑑別所法務教官としての少年に対する希望 (一覽)

- 0 1 少年鑑別所への入所したことを反省し、立廻りの興味がなくなり、立廻りを忘れることなかれ。
- 0 0 0 1 入所している今の気持ちを忘れてはいけない。
- 0 0 0 2 反省されたことよって、新たな人生を歩むきっかけとしてほしい。
- 0 0 0 3 今入所することになった事件をしっかり反省して、一人前の社会人としての自覚を持って、自己の特徴を生かして、社会に貢献できるような人間になってほしいと思います。
- 0 2 再び非行をしてほしくない。
- 0 0 0 4 今度二度と罪を犯さない決意を固めてもらいたい。
- 0 0 0 5 二度と犯罪をしないという強い意思を持って生活する中で、正しい生活習慣を身に付けてほしい。
- 0 0 0 6 刑務所に入る前に更生してもらいたい。
- 0 0 0 7 二歳と少年鑑別所へ入ることなく、無事成長して、一社会人としてしっかり税金を納められる人間になってもらいたい。
- 0 0 0 8 再び懲罰に収容されることのないように。
- 0 0 0 9 同じ過ちを犯さないように成長してほしい。
- 0 0 1 0 自分の罪と罰に対する悔いの気持ちを持ち、よく反省した上で再非行をしないように望むものである。

0 3 法令を守って生活してほしい

- 0 0 0 1 事柄に対する認識の甘さを改める。
- 0 0 0 2 社会規範を守って生活できる人間になってほしい。
- 0 0 0 3 法律を遵守できる少年に成長してほしい。
- 0 0 0 4 犯罪をすることのない生き方をしてもらいたい。
- 0 0 0 5 犯罪行為だけはしない、させない人
- 0 0 0 6 「悪いことはしてはいけない」という気持ちを持つ。

0 4 共感性のある人になってほしい

- 0 0 1 7 相手の立場、相手の気持ちを考えて行動できる人間になってほしい
- 0 0 1 8 他人の気持ちが分かる人間になってほしい。
- 0 0 1 9 相手の気持ちを考えて、行動ができる人間になってほしい。
- 0 0 2 0 相手の気持ちを理解できるような成人へと成長してほしい。
- 0 0 2 1 人の気持ちが理解できる人
- 0 0 2 2 相手の気持ちを第一に、共感的に受容できる大きな心を養う。
- 0 0 2 3 共感性を持って、自分の立場と相手の立場を客観的に置き換えられる人に近づいてほしい。
- 0 0 2 4 「他者への共感性を養えるように」と、考えています。
- 0 2 5 他人への思いやりのできる人になってほしい
- 0 0 2 6 他人を思いやりの気持ちを持ち、犯罪のない世の中になるよう、少しでも貢献してくれらる。
- 0 0 2 7 思いやりの持てる人
- 0 0 2 8 人に対する思いやりのある社会人に成長してほしい。

- 0 4 3 他人の痛みが分かる人になってほしい
- 0 0 2 9 他人の痛みが分かる人になってほしいと思っています。
- 0 0 3 0 人の痛みを理解できる心豊かな少年になってほしい。
- 0 0 3 1 協調、人間の痛みなど、相手について考える力が不足している。
- 0 0 3 2 他人の心の痛みが分かる思いやりのある人になってほしい。
- 0 0 3 3 他人への思いやりや、痛みが分かるようになってほしい。
- 0 0 3 4 相手に対する思いやりや、心を持ち、他人の心の痛みが分かる人間になってほしい。

(0 4 4・0 4 5は該当する回答なし)

- 0 4 6 被害者の気持ちが分かる人になってほしい
- 0 0 3 5 被害者の気持ちが理解できる。
- 0 0 3 6 被害者ことよみな迷惑をかけたかなど、本当に反省してほしい。
- 0 0 3 7 自分が行った非行のために、周囲の人(被害者だけでなく、被害者の家族、地域住民、自分の家族など)がとられた影響を受けたのかを、きちんと理解してほしい。
- 0 0 3 8 命の大切さを知る。人の命を奪うことがどんな理由であろうとも許されないことを理解する。

0 5 自分の内面を身をもって成長してほしい

- 0 0 3 1 周りの人々と自分との位置づけを身に付けてほしい
- 0 0 3 9 現実社会の厳しさを知ってほしい。
- 0 0 4 0 現実の自分の姿や自分の置かれている状況を正確に把握し、ありのままを見つめて、自分自身を成長させてほしい。
- 0 0 4 1 自分の現状、あるいは自分の進む道をはっきりさせて、自分なりの満ち足りた生活ができるようになってほしい。
- 0 0 4 2 自分今の役割を知り、やるべきことを一つずつ成し遂げていく徹底さと、継続して新しい生活習慣(規則正しい生活)を身に付けてほしい。
- 0 0 4 3 規則正しい生活習慣(規則正しい行動)を身に付けてほしい。
- 0 0 4 4 他人の速く変わらなない人になってほしい。
- 0 0 4 5 パラソルの良い人になること。
- 0 0 4 6 感じの良い大人になれるように成長してほしい。
- 0 0 4 7 「何をすべきか」を理解できる人間になってほしい。
- 0 0 4 9 「人として守らなければならないこと」を、考えなくてもきちんと判断できるようにしてほしい。
- 0 5 2 自分と向き合ってみてほしい
- 0 0 4 9 自分自身で気づき、改めることのできる力を身に付けてほしい。
- 0 0 5 0 客観的に自分の過去を見つめ直すことができるようになってほしい。
- 0 0 5 1 もっと自信を持って行動してほしい。
- 0 0 5 2 忍耐強く物事の判断ができる少年に成長してほしい。
- 0 0 5 3 物事に対して敏感になってほしい。
- 0 0 5 4 自分の立場を理解し、そこから自らをそらさないで生きてほしい。
- 0 0 5 5 自分の行動に責任を持ち、自分の頭で考え判断し、行動できる人になってほしい。
- 0 0 5 6 物事に対する行動の基準を判断できる心を養ってほしい。

- 0.057 自分の言動に責任が持てること  
 0.058 自分の行動は自らの意志で選んだ行動であることを自覚して、その責任が取れるようになってほしい。  
 0.059 社会人としての普通の言動がとれる人間になってほしい。  
 0.060 少年らしい素直で、正直な人間に成長してほしい。  
 0.061 他人の動きを左右されたり、安易に同調したりすることなく、しっかりと自分の考えを持つて行動できる人間になってほしい。  
 0.062 先々を見通した考えと行動をとる。  
 0.063 自覚の確立  
 0.064 正常な臨臨感を身に付けて、社会に適応できるようになってほしい。  
 0.065 脚腕を覚悟とし、礼節を重んじる人になってほしい。  
 0.066 心を豊かにし、目光のことにとらわれない冷静な判断ができる人になってほしい。  
 0.067 いろいろな方向から物事を感じられる人間に成長してほしい。  
 0.6 自分を大切にしてほしい  
 0.068 諦めないでほしい。  
 0.069 自分を愛じ、自分を大切に生きてほしい。夢を見失わず、多少やんちゃでも、いつまでも少年の心を持ち続けてほしい。  
 0.070 自分を大切にできる。  
 0.071 自分を大切に、自分の人生を自分で納得できる状態で歩んでほしい。  
 0.072 自分の身体を大切に、年齢相応の無理をしない生き方をする。  
 0.073 社会人として充実した人生を送ってもらいたい。  
 0.074 物事に感謝する気持を持ち、特別なことがなくても、「生きていること」に幸せを感じとれるよう人になってほしい。  
 0.075 当たり前の社会生活を送り、人として幸せな人生を送ってほしい。  
 0.076 華々と幸せな社会生活を送ってほしい。  
 0.7 友人関係を改めてほしい  
 0.077 友人関係の在り方について、もっと正しく理解する。  
 0.078 友人関係を直す。  
 0.079 不良交友を断つ意思を持つ。  
 0.080 友人の悪い誘いに毅然と同調したり、友人を悪いことに誘わない。  
 0.081 なんでも相談できる友人等を早く見つけ、自分の悩みごとを正しい方向に解決する方法を体得してもらいたい。  
 0.8 家族関係を大切にしてほしい  
 0.082 家庭内で自分が置かれている立場を、もっとよく理解してほしい。  
 0.083 家族関係を向上し、家族の信頼感を築き、味わい、それが励みとなり、ブレ一キにもなるように、自分を成長させてほしい。  
 0.084 保護者に対して、謝罪の気持が持てる。  
 (0.9から1.7までは該当する回答なし)  
 1.6 仕事を大切にしてほしい  
 0.085 何か定職について、嫌なことがあっても我慢して続けてもらいたい。  
 0.086 仕事に耐える構えをつくる。  
 0.087 社会人としての自覚を持ち、仕事の大切さを認識する。
- 0.088 他人のために仕事をするという気構えがほしい。  
 1.7 知識を身に付けてほしい  
 0.089 学校生活をもっと有意義なものにしてほしい。  
 0.090 必要な学力を補い技術を身に付けて、努力してほしい。  
 0.091 教養を高めることに努めてほしい。  
 1.8 夢や希望を持って生きてほしい  
 0.092 毎日の生活にハリが出るくらい、自分の目標を定め、策りのある生活を送ってほしい。  
 0.093 目的をはっきりさせて物事に取っ組み合ってもらいたい。  
 0.094 明るい目標を持って前向きに進める人  
 0.095 大きな夢を抱いて社会生活を送ってほしい。  
 0.096 自分の夢を持ってほしい。

(資料 1-2)

- 0 0 3 2 法や規則を守るということだけでなく、社会的なマナーが守れるような、良い意味での道徳観を伴った行動が取れるような大人になってもらいたい。
- 0 4 共感性のある人になってほしい
  - 0 4 1 相手の気持ちが分かる人になってほしい
  - 0 4 2 相手のことや、相手のことを考えられる人間になってほしい。
  - 0 4 3 自分に対する他人の見方を理解し、周囲が変わるからではなく、自分が変わるからであるというこうことを理解し、他人に対して好意的な解釈をしてほしい。
  - 0 4 4 自分自身のこと、他人を尊重できる人になること
  - 0 4 5 人を信頼できる。
  - 0 4 6 人を理解する。
  - 0 4 7 人間を信じて互いに助け合うことによって、自らの行動範囲を拡大し、充実した人生を歩んでほしい。
  - 0 4 8 他者との関わりの中で、自分を置く経験を通してほしい。
  - 0 4 9 「自分一人ではない」という自覚を常に持つてほしい。
  - 0 4 10 相手の気持ちを考えよう行動できるようになってほしい。
  - 0 4 11 相手の気持ち(被害者等)の気持ちも考慮に分かる人間になってほしい。
  - 0 4 12 人(家族、被害者等)の気持ちを尊重に出来る人間になってほしい。
  - 0 4 13 人の気持ちを理解できる、人の立場に立つて考えることができる人間になってほしい。
- 0 4 4 ちよっと、周りの人に気配りできる人
  - 0 4 1 他人への思いやりのできる人になってほしい
  - 0 4 2 他を思いやりやりの気持ちを持った人間に成長してほしい。
  - 0 4 3 他人に対する思いやりを持つてほしい。
  - 0 4 4 思いやりのある人間
  - 0 4 5 思いやりを持つ。
  - 0 4 6 他人を思いやり、他者を尊重することができるよう身に付けられるよう、そして、それが行動が持つてくるようになること
  - 0 4 7 他者を思いやりやりの気持ちを持つてほしい。
  - 0 4 8 協調・協力・思いやりや、何事にも向きに取組んでいこうとする姿勢を持つてほしい。
  - 0 4 9 人に対する慮しきや行動で示すことができるようになってほしい。
- 0 4 3 他人の痛みが分かる人になってほしい
  - 0 4 1 人の痛みが分かる人間に成長してほしい。
  - 0 4 2 人の痛みが分かる人になってほしい。
  - 0 4 3 他人の心の痛みや苦しみを感じ取れる人間になってほしい。
  - 0 4 4 他人の痛みやつらさが理解できること
  - 0 4 5 相手の痛みを知ることで人間に成長してほしい。
  - 0 4 6 他人に迷惑をかける人になってほしい
  - 0 4 7 他人に迷惑をかける生活をしてほしい。
  - 0 4 8 規則を守り、他人に迷惑をかけるまいとする気持ちを持つこと
  - 0 4 9 人に迷惑をかける生活をしてほしい。
  - 0 4 10 人に迷惑をかける人になってほしい。
  - 0 4 11 人(家族も含めて周りの人)に決して迷惑をかける、法を守り、地道に働き、
- 0 1 少年院へ入院したことを反省し、立直りの契機にしてほしい
  - 0 0 1 何のために少年院にきたのか、常に自覚を持ってもらいたい。
  - 0 0 2 本非行の重大性など、しっかりと反省してほしい。
  - 0 0 3 自分が犯した罪の対する深い反省
  - 0 0 4 「反省する」ことを重要視する心を養ってほしい。
  - 0 0 5 自分自身を責め、罪の償いをきちんとし、自分に何が欠けているのか、どうすれば自分を変えられるのか自問自答し、少年院に来たことをマイナスの捉えず、プラスに変えて今後の生活に役立ててほしい。
  - 0 0 6 立派に更生して、安定した生活を送ってほしい。
  - 0 0 7 立ち直り、更生してほしい。
  - 0 0 8 「チャンとした行動」がえられるよう、成長してほしい。
  - 0 0 9 マジメになってほしいと思っています。
- 0 2 再び非行をしてほしくない
  - 0 0 1 0 まずは、再非行をしないこと
  - 0 0 1 1 再非行をせず
  - 0 0 1 2 二度と非行・犯罪をしないこと
  - 0 0 1 3 二度と非行を犯さないこと
  - 0 0 1 4 二度と非行や犯罪をしないようにすること
  - 0 0 1 5 二度と警察の世話にならないようにしてほしい。
  - 0 0 1 6 最低でも、二度と施設生活を送ることのない大人に成長してほしい。
  - 0 0 1 7 二度と施設生活を送らないようにしてほしい。
  - 0 0 1 8 非行(犯罪)を繰り返すことがないように、そして、二度と施設で生活することのないように社会生活を送ってほしい。
  - 0 0 1 9 「再び同じ過ちを繰り返さない」強い精神を持つてほしい。
  - 0 0 2 0 非行・犯罪の周囲の人に心配・迷惑・不安・恐怖等を少なからず与えることを理解し、自分の行為に対する償いを果たすとともに、二度と犯罪に關わりたくない気持ちを持つてほしい。
- 0 0 2 1 しっかりと社会生活を送り、本退院してほしい。再非行しない人間になってほしい。
  - 0 0 2 2 絶対、刑務所に入ってもほしくない。
  - 0 0 2 3 最低限、犯罪を繰り返さないことなら大成です。
  - 0 0 2 4 人生の中で色々なことが起こったとしても、犯罪によることなく解決できる能力を身に付けてほしい。
  - 0 0 2 5 同じ失敗をせず
  - 0 0 2 6 犯罪をしない人生を歩むのが大切だと気づいてほしい。
  - 0 0 2 7 自分の代で犯罪の連鎖を立ち、子どもに人として必要なこと、正しいことを自信を持って伝えることができる父(母)親となってほしい。
  - 0 0 2 8 自分の犯した非行を、過去のものにして欲しくない。
  - 0 0 2 9 まず10年、どのような困難があっても、犯罪や、過剰な依存行動をとらないよう。
- 0 3 法令を守って生活してほしい
  - 0 0 3 0 強固な遵法意識を身に付けてほしい。
  - 0 0 3 1 物事の決まりを守る大切さや、冷静に物事に対処する力を養ってほしい。

- 0094 今の自分がどんな立場にあるかを理解する。
- 0095 自分の置かれた立場を理解し、達成可能な目標を持って少年院で体験学習したことを生かして社会人として果敢とてほしい。
- 0096 自分の置かれている状況を客観的に判断し、問題意識や改善意欲を持つようになるようにしてほしい。
- 0097 自分の現状を素直に受け止め、誰かに話ができ、自分の中で解決に向けて考える力をつけてほしい。
- 0098 普通の生活をするのが一番大事なことだと分かってほしい。
- 0099 常識ある態度を身に付けてほしい。
- 0100 健全な対人関係を結んでほしい。
- 052 自分と向き合ってほしい
- 0101 自分がこれまでしてきたこと、されたことを、しっかりと振り返ってもらいたい。
- 0102 自分の非行までの生活を振り返ることや、そのときの気持ちをじっくりと見直すことができること
- 0103 家族、兄弟、兄弟身近き人の視点で考えることができること
- 0104 被害者や、全知無知の人の視点で考えることができること
- 0105 自分の問題を自分のこととして捉える人になってほしい。
- 0106 自分がどのような人間であるかを常に見つめ、心を正しく整理しながら生きてほしい。
- 0107 自分を冷静に見つめる拠り所がないため、これを自分で探してほしい。
- 0108 自己の疑問点について、しっかりと認識できるようになってほしい。
- 0109 まずは、自己中心的な考え、姿勢を改める。
- 0110 利己的な考えをなく、「他人のために何かをする。考える」という構えを持つ。
- 0111 自分の弱さに気付いて、謙虚に、願望を生きるようになってほしい。
- 0112 自らの弱い面を早期に自覚し、願望意識を醸成する。
- 0113 自分の弱いところをさらけ出せるようになってほしい。
- 0114 大きな自分に、「まあいいや」と放っておかない人間になってほしい。
- 0115 努力の方法ではなく、平和的な方法で他者と共存できるよう成長してほしい。
- 0116 非行の原因を明確に求めず、自己抑制できる力を身につけてほしい。
- 0117 他罰的に捉えない。
- 0118 失敗した事柄について素直に誤りを認め、正しい方向へ進む考え、行動を示せること
- 0119 欲を抑え、理性ある行動がとれる力を身に付けてほしい。
- 0120 健全な自己主張、問題解決能力(人に流されない)を育てる。一人だけで抱え込まない。自分の力で正しい選択をする。)ができるようになる。
- 0121 恥に耐える力
- 0122 辱めに耐える。
- 0123 「人として在りたいか」という中で、自分の行動を選んでいけるような人を目指してほしい。
- 0124 自己改善、人間形成に真に取り組んでほしい。
- 0125 一人の人間として何を考え、どんな行動をしなければならぬかを考える。
- 0126 考え方の視野を広め、自分の問題点に気付く。「改善しなければ」という自覚が持てるようになってほしい。
- 0127 自分と向き合い、自立(往)した健全な生活が送れるように成長してほしい。
- 0128 社会に出て、責任を持って生活ができる人になること

- 普通に生活してほしい。
- 0065 人に迷惑をかけないような大人に成長してほしいと思う。
- 0066 人に迷惑をかける行為は、その時々を考えなくとも、自然に抑えることができるようにしてほしい。
- 0067 周囲へ迷惑をかけない人になってほしい。
- 0068 周囲に迷惑をかけない。ルールを守る等、基本的なことが当たり前にできる人間になってほしい。
- 0069 社会や他人に迷惑をかけることのないように成長してほしい。
- 0070 社会的な常識を理解し、他人に迷惑をかけずに生活できるようにしてほしい。
- 0071 素直さ、謙虚さ、冷静さをしっかりと身に付け、他人に迷惑をかけない、自分の大切なものを守れる人間に、成長でも成長してほしい。
- 0072 世の中はやっばいではないこと、他人に迷惑をかけることのほかに、「してはならぬ」と皆で決めたことがあるということを体得してほしい。
- 0073 約束は必ず守る(他人を簡単に裏切らない)。
- 045 他人を傷つけない人になってほしい
- 0074 最低限、社会の人を傷つけない、迷惑をかけたりしない人間に成長してほしい。
- 0075 他人を傷つけるような行為をしない人間になってほしい。
- 0076 他人を傷つけない人間に成長してほしい。
- 0077 自分や他人を傷つけない生き方をしてほしいと思う。ただその一点だけに全力を尽くしていきます。
- 0078 今後二度と人を傷つけないこと、自分の人生を大切に、幸せなものにすることが、周囲の人々を幸せにすることに繋がることを知ること
- 0079 決まりを守らなければ、他人や家族、自分が苦しむことになると思える人間になってほしい。
- 046 被害者に誠実に対応してほしい
- 0080 被害者に対して、心から謝罪できる。
- 0081 被害者の立場に立ち、自分がしたことを見つめられるようになってほしい。
- 0082 被害者の心の痛み、悲しさ、苦しさを理解できる人間になってほしい。
- 0083 被害者への謝罪行動の喚起
- 0084 被害者の心の痛みや、苦しみが理解できる人になってほしい。
- 0085 被害者に謝罪して、一生をかけて罪を償ってほしい。
- 0086 被害者に対しては、誠実に補償を行ってほしい。
- 0087 被害者及び地域社会における自分自身の責任について、深く考える。
- 0088 被害者のことを考える。
- 0089 「被害を受けた人の痛みは進行形であること」を、深く分かってほしい。
- 0090 それと同時に、犯罪によって今なお苦しんでいる多くの被害者がいるという事実にも目を向け、反省の気持ち、自分の言動に気づけることを忘れず、「命あるものを労わる心」を育んでほしいと願っている。
- 0091 社会一般の見方は、被害者への償い、謝罪があることによって、初めて更生の入り口となり、自分とのズレを認識して生きていくってほしい。
- 0092 他人に憎しみや怒りの感情を抱かせない。自己の非を素直に認め、謝罪ができる。
- 05 自分の内面を見つめて成長してほしい
- 051 周りの人たちと自分との位置づけを身に付けてほしい
- 0093 現実というものをしっかりと把握して、そこから逃げ出さずに立ち向かえるよう

- 0 1 2 9 自ら言った言葉に責任を持ち、それをいつでも自分の信念として持ち続けてほしい。
- 0 1 3 0 自分の行動、発言に対して責任を持つ人間に成長してほしい。
- 0 1 3 1 自分で自分の行動を決定し、それに対して責任を持つ人間
- 0 1 3 2 自分と自分の行動、発言が周囲にどのような影響を与えるのか分かる人になっ  
てほしい。
- 0 1 3 3 自律心、責任感を持つ。
- 0 1 3 4 自分で責任を取れないことには手を出さない人間
- 0 1 3 5 責任感のある人間
- 0 1 3 6 責任感があり、物事に粘り強く取り組むこと
- 0 1 3 7 やるべきことをしっかりとやる。責任感を持つ。
- 0 1 3 8 あらゆる行動は自分の責任のもとで成り立つと自覚して、行動してほしい。
- 0 1 3 9 最後まで物事をやり遂げる強さ、責任感を身に付けてほしい。
- 0 1 4 0 今までのような言動を自分や家族などが受けた場合を想定して、それに対して  
どのような感じ方をするかを教えられる少短になってほしい。
- 0 1 4 1 善悪の判断をしっかりと行い、自分の言動に責任を持つ人間になってほしい。
- 0 1 4 2 危機感面があるとき、課題に優先順位を付けて対応できる人間であってほしい。
- 0 1 4 3 「機嫌悪い」を言うことがあったとき、その場、その時に、少し考えること  
ができるようになってほしい。
- 0 1 4 4 良い悪いの判断が的確にできると、正しい判断に基づき行動が取れること
- 0 1 4 5 周囲の状況を適切に把握して、自分が置かれた立場を考えられる人間に成長し  
てほしい。
- 0 1 4 6 困難なことに対して前向きに取り組む姿勢を持ち続けてほしい。
- 0 1 4 7 うまくいかないときも、それなりにやり抜く心のゆとりを持つてほしい。
- 0 1 4 8 問題にぶつかつたときに、自分で解決を考え、対処していきけるようになってほ  
しい。
- 0 1 4 9 周囲の雰囲気は左右されることなく、自分の考えをしっかりと持ち、他者の気持  
ちを考えて行動できる人間になってほしい。
- 0 1 5 0 自分の目の前にある問題や取り組むから逃げないで、きちんと対処していつ  
てほしいと思う。
- 0 1 5 1 困難なこと、苦しいと思うことから逃げない生き方
- 0 1 5 2 後先のことを良く考えて行動できる人間になってほしい。
- 0 1 5 3 自分の心と素直に向き合うことができるようになってほしい。
- 0 1 5 4 素直な気持ちを持って、生活できるようにしてほしい。
- 0 1 5 5 同時に他（これも自分以外の人がそれぞれ自分というものを持っている。）を、  
大事にすることを学んでほしい。
- 0 1 5 6 物事を粘り粘って受け取るのはなく、素直に受け取る。
- 0 1 5 7 素直、正直な人間になってほしい。
- 0 1 5 8 うそをつかず、正直に生きるといこと
- 0 1 5 9 うそや言い訳を口にしなない人間になってほしい。
- 0 6 自分を大切にしてほしい
- 0 1 6 0 自分や、周囲の人を愛せるようになってほしい。
- 0 1 6 1 自分や、周囲（社会）に対し、肯定的な感情を持つてほしい。
- 0 1 6 2 自分も、他人も大切にできる行動を主体的に選択していきける人生を歩んでいく  
こと
- 0 1 6 3 自分も、そして周りの人たちも、大事にして生きていきける人になってほしい。
- 0 1 6 4 自分や、周りの人を大切にする人間になってほしい。
- 0 1 6 5 自己像が肯定的になることを期待する
- 0 1 6 6 自分を肯定的に捉えて生きていきける人間になってほしい。
- 0 1 6 7 自分の命を大切にしてほしい。
- 0 1 6 8 自分という存在がとも価値の高いものであることを実感しながら、成長して  
もらいたい。
- 0 1 6 9 自分を大切にすること
- 0 1 7 0 「自分を大切にしよう」ということを知ってほしい。
- 0 1 7 1 「自分を大切にしよう」とする」気持ちを持つてほしい。
- 0 1 7 2 自分の人生を大切に生きていきてもらいたい。
- 0 1 7 3 自分を大切にできる人になってもらいたい。
- 0 1 7 4 自分への感謝感を育て、自分を大切にする人になってほしい。
- 0 1 7 5 自分に自信がでけるようになる人間に育ってほしい。自分自身で今後の目標を見つけて、自分を大  
切にした生き方ができる人間に育ってほしい。
- 0 1 7 6 自分を好きになり、自分を大切にほしい。
- 0 1 7 7 自分を大切にしたい。
- 0 1 7 8 自分を大切に、そして、自分を愛えてくれる心を持ち続け  
てほしい。
- 0 1 7 9 仕事を一生懸命やる人間であり、自分を高め命を大切にできる人間になってほ  
しい。
- 0 1 8 0 たった一瞬しかない人生だからこそ、精一杯生き抜くことを忘れないでほしい。
- 0 1 8 1 後悔のない人生を送って生きてほしい。
- 0 1 8 2 過去に負力を受けた経験、自らが被害者であるという意識を持つ少年は多いと  
思われるが、小さなことでもよいから成功体験を創出、「努力すれば受け入れられ  
る。実りがある」ということを実感することで、他動的な考えにとらわれず、自  
分も周りの人も大切にできるようになってほしい。
- 0 7 友達関係を改めてほしい
- 0 1 8 3 相談できる本当の友を持つてほしい。
- 0 1 8 4 もとの友人たちに影響されて、不良交友に走らないでほしい。
- 0 1 8 5 不良交友の関係を断絶されず、自分で本当の友達を選んでいきける力を身に付け  
てほしい。
- 0 8 家族関係を大切にしてほしい
- 0 1 8 6 家族の大切さ、有難味を理解、実践し、将来、自分が新たな家族をつくったと  
思ったようなことを、繰り返さず、自分が親にしてほしい。自分が親にしてしまっ  
てしまったようなことを、繰り返さないようにしてほしい。
- 0 1 8 7 家族の大切さを受け、自分の子どもには同じ思いをさせないように成長して  
ほしい。
- 0 1 8 8 家族を大切にしたい。普通の社会人として生活してもらいたい。
- 0 1 8 9 家族の大切さを感じる。
- 0 1 9 0 これ以上家族には迷惑をかけないで。
- 0 1 9 1 家族、自分自身を大切にしたい。周りに信頼される人間になってほしい。
- 0 1 9 2 家族を大切にしたい。周りに信頼される人間になってほしい。
- 0 1 9 3 家族が近くよくなることは、絶対にやらないようにしてほしい。
- 0 1 9 4 せつなく苦んだ親を再び悲しませることがないように。切に願うものである。
- 0 9 社会から受け入れられる行動ができるようになってほしい

- 0.91 本来的な生活の仕方を身に付けてほしい。  
 0.105 人として本来的なことを身に付けていく努力をしてほしい。  
 0.196 本来的な仕事を弁え、後生を考えて行動する。  
 0.197 一歩一歩学習して充実した人生を歩んでほしい。  
 0.198 何か物事を継続して取り組むように変わってほしい。  
 0.199 自分をこまかきず、人を信じ、自分のやれることを信じてほしい。  
 0.200 普通の家庭人として家族に囲まれ、自ら犯罪や犯罪者と関わることなく、平凡な一社会人となってほしい。  
 0.201 あまりに本来的なことが育っていないので、総合的な成長をしてほしい。  
 0.202 「生きる力」を身に付けてほしい。  
 0.203 「生きるための力」を身に付ける。  
 0.204 自分でできる人間になってほしいと思います。  
 0.205 自分に対して誠実に生きることができると人間  
 0.206 探偵に左右されることなく、自分の意思を持って誰かの人になっ  
 0.207 人として当たり前知識・常識・マナー・道徳を身に付けてほしい。  
 0.208 物事を考えて行動できるようにならぬほしい。  
 0.209 学力とか実面的な問題よりも、社会で生きていくためにはどうすればよいのか  
 を考える。  
 0.210 成長過程において出会うことを育ち直し、学び直しとして感じ取ってほしい。  
 0.211 普通の価値観を持ち、普通の生活ができるようになりたいと思いま  
 す。  
 0.212 視野を広く持つてほしい。  
 0.213 気持ちも、表情も、明るい人間になってほしい。  
 0.214 立派な人になってほしい。  
 0.215 小さな小さいことでも、自分以外の人々に援助できる生活をする。  
 0.92 社会人として生活ができる人になってほしい  
 0.216 社会に還元できる力 (①基礎体力、基礎学力 ②社会的資本 (資格取得など)  
 ③就職 (生活能力を付ける。) ④不具交友の純ちまり (良い対人関係) ⑤感情  
 をコントロールできる力 ⑥将来結婚し、自分の子どもをしめしめか教育すること  
 を、身に付けてほしい。  
 0.217 社会に還元し、周囲の人々に好かれる。  
 0.218 社会で通用する大人になってほしい。  
 0.219 社会で通用する、そんな大人になってほしい。  
 0.220 社会性を身に付けるにはどうすればよいか、これを超える力を持つてようにな  
 ってほしい。  
 0.221 社会の一員として自覚を持つてもらいたい。  
 0.222 社会の一員として胸を痛めて生きていくようになること  
 0.223 社会の一員として地味に働き、生活することは、個性を埋めさせることではな  
 い。  
 0.224 社会の一員としての自覚を持つて、社会に従って立つ人になってほしい。  
 0.225 社会人としての常識ある行動が取れるようになってほしいと思  
 う。  
 0.226 社会人として通用するものの方、考え方を身に付けてほしい。  
 0.227 社会生活を維持し、自分の生活の安定を意図した言動が取れるようになってほ  
 しい。
- 0.228 社会生活をきちんと送れる人になっしてほしい。  
 0.229 社会生活をできる能力を身に付けてほしい。  
 0.230 社会生活に適合していきける力を身に付けてほしい。  
 0.231 社会生活をすることで (快楽) を守ること・身の回りのことができ  
 ること・本来的な対人スキルを身に付けていること) ができ  
 ること。  
 0.232 社会生活の中で、当たり前前のことでは当り前のように考えて行動してほしい。  
 0.233 社会生活を送っていく上で、最低限のモラルを身に付けてほしい。  
 0.234 社会生活で必要なことはバランス感覚であり、それを身に付けるようになっ  
 ほしい。  
 0.235 「社会生活で通用する取り組み」を常に考えた生活をしてほしい。  
 0.236 自分を社会より良くするのための方法を常に探索してほしい。  
 0.237 自己を成長させ、健全な社会人として生きていける多くの経験を積んで、自己  
 研鑽を深めてほしい。  
 0.238 定額につきこと、基本的な生活習慣を身に付けることで、社会の一員として自  
 立できることを自覚して、出陣に望んでほしい。  
 0.239 自活していきけるようになる。  
 0.240 どんな仕事でもいい、毎日働くこと  
 0.241 挨拶がきちんとできる人になっしてほしい。  
 0.242 親を親として、自分を自分として客観的に見ることでできる人に成長してほし  
 い。  
 0.243 「人より賤れていたり、お金を持っていることや、容姿の美しさだけが個人を  
 輝かせるものではない」ということを理解して、社会人になっほしいと思いま  
 す。
- 0.93 周りの人たちから信頼、信用される人になっしてほしい  
 0.243 社会的にも信用されるように。  
 0.244 周りの人々から信頼される人間になっほしい。  
 0.245 周りの人々から可愛がられる人間になっほしい。  
 0.246 職場等では周りから可愛がられること  
 0.247 人に好かれる人間になっほしい。  
 0.248 周りの人々から生かされているという気持ちを持ち、周りの人から感謝される行  
 動ができる人
- 0.94 人間として前向きな生き方をしてほしい  
 0.250 「ふ」と引き出しの広い人間」を目指してほしい。  
 0.251 更生への意欲が継続できるような環境の中で生活してほしい。  
 0.252 人が人としてお互いに尊敬できるようにになっほしい。  
 0.253 自分の胸を生かして、自分しかできない何かを見つけてほしい。  
 0.254 正しい価値観を身に付けてほしい。広い視野を持ち、善悪の判断に基づいて行  
 動できるようにになっほしい。  
 0.255 広い世界に目を向けられる人間になっほしい。  
 0.256 欠ける習慣  
 0.257 前向きな生き方・マナー・マナー・マナーを維持したまま成長していきもらいたいと希望し  
 ている。  
 0.258 前向きに取り組んでいこうとする姿勢を持つてほしい。  
 0.259 自先のことだけでなく、10年先の自分を見据えて、しっかりと生活設計  
 を立てて行動できる人間に成長してほしい。  
 0.260 10年後の自分を見つめながら社会生活を送っしてほしい。



- 0261 何か趣味を持ち、自分が住んでいる地域の人たちと、その趣味を通して交わりを持ち、生活してもらいたい。
- 0262 柳の木のように、しっかりとした根(精神力)と柔らかく柔軟な枝(考え方)を身に付けて、風に負けない木(人間)になってほしい。
- 0263 死ぬとき、意と罪とを測りにかけ、善の方が重かったという生き方をしたい。
- 0264 いくつか街で会ったとき、笑顔で話せるような人にならばいいと思う。
- 095 道しるべになる人に出会える努力をしてほしい
- 0265 人生の目標となる師を見つけて、「大人になるのも満足できるものではない」と思っていてほしい。
- 0266 人生の目標となる師を見つけて、「大人になるのも満足できるものではない」と思っていてほしい。
- 0267 不安な要素を一人で抱え込まず、気概に相談できる人を持つことができる願いであってほしい。
- 0268 身近な大人に適切な援助を受けるようになること。
- 0269 他者に依存する傾向が強い少年が多いので、自分で問題を抱える強さや、適切に他人の支えや、援助を得る方法を身に付けてほしい。
- 10 少年院で沢山のことを学習して身に付け、役立ててほしい
- 0270 人の話を良く聞き、問題に直面した場面で冷静に対処して解決できる人
- 0271 人の話を真顔に聞き入れる。
- 0272 人の話を良く聞き、物事を冷静に判断する力を身に付けてほしい。
- 0273 人の話をきちんと聞ける人間になることも大切なことだと思う。
- 0274 集中力を増すこと
- 0275 少年院生活で少しでも多くの達成感を味わってほしい。
- 0276 少年院生活は、人生における一過程であることを自覚し、少年院で得たものを手がかりに、社会生活を送るより良いものにしてほしい。
- 0277 少年院生活で学んだことを、社会復帰に役立ててほしい。
- 0278 少年院での生活を生かし、今後の人生に役立ててほしい。
- 0279 少年院での集団生活で得られたことが多かったように、社会の中で自分らしく成長してほしい。
- 0280 衆の集団は社会の縮図だと思うので、集団生活を通じて学んでほしい。
- 0281 少年院で学んだことを無駄にすることなく、一日も早い自立を望むばかりである。
- 0282 少年院で受けた教育をベースに、より努力してほしい。
- 0283 少年院で身に付けたこと(身辺整理、規則正しい食習慣、体育、あいさつ、返事等)を日常生活で実践してほしい。
- 0284 少年院で学んだ知識や体験を生かして、普通の社会人として成長してもらいたい。
- 0285 少年院で受けた指導を通して、一般社会で十分通用する人間になってほしい。
- 0286 職員との出会いや感動的な体験を通して、自分の存在価値を発見したり、自己や他人を大切にできる人になってほしいと思う。
- 0287 健全な集団生活や職員との関わりを通して、人としての在り方を学んでほしい。
- 0288 生活の基本は何かということをしつかり学んだのだから、社会の現実にも失望しないで、自分から、自分がやるという姿勢を持ち続けてほしいと思う。
- 0289 少年院に入院する前の自分と、入院後の自分について、客観的に判断できる力をもてるようになってほしい。
- 0290 少年院を出ても、まだまだ勉強することは多い。
- 0291 少年院ですべてが解決するわけではないので、出院してからも問題や葛藤を抱えながら、何らか生きていくだけの力や覚悟をもって生きてほしい。
- 0292 少年院を仮退院する際には高過ぎる目標を掲げてしまい、実際の生活で挫折してしまうことが多いので、実現可能な目標を設定し、努力することを継続してもらいたい。
- 0293 少年院での処遇、更生は、本人が再び社会で適応するためのスキルアップに重点が置かれており(例えば、生活指導や職業指導)。それを継続したからといって、更生に動んだと勘定して欲しくない。
- 0294 出る時はまっすぐに少年院生活のプロになっているだけで、社会で再スタートを切るのはまたたくまの素人であることを理解してほしい。
- 0295 少年院で友人から得る知識などは良いものばかりではないので、善悪の正しい判断ができる大人にならなければならない。
- 0296 人生の「兵印」を、せめて上向きに修正する契機になってくれればという希望を持つ。
- 0297 少年たちにとって、「これだけやった、できたんだ」という実感を現実のものとして身に付けていて、それが厳しい社会の中で自分と戦う力の源になってほしい。知り、時の流れ、季節の色、香り、様々な人々の想いを少しでも多く肌で感じ、そのまっとうな想いを実践して善せになっしてほしいと思います。二度と人を、そして自分を傷つけないように。深く反省し、深い愛を感じてほしい。
- 0298 被害者としての心の傷を乗り越えるとともに、加害者としての行為を受け止めるだけの心構えを養わせた。
- 0299 後は普通の少年と同じです。
- 11 忍耐力を付けてほしい
- 0300 仕事に対して忍耐強く、些細なことや、辛いからと言って、すぐに投げ出さない人間になってほしい。
- 0301 努力して、諦めない。
- 0302 努力を継続していける少年です。
- 0303 努力すればかなりの部分で報われるということを学んでほしい。
- 0304 地道に努力して、何かを獲得することが少なかったので、そのような集団体験が多く得られると思う。
- 0305 強い意志を持って、少々のことで挫折することなく、正しい道を探してほしい。
- 0306 忍耐と意欲を持って、自立した人生を送ってもらいたい。
- 0307 物事に對し、地道に諦めずに取り組む姿勢を養い、困難に挫けない力を身に付けてほしい。
- 0308 いつも前向きに行動し、努力すれば何事も達成できるという信念を持って、挫けずに頑張っていく、忍耐力を持ってもらいたい。
- 0309 物事をプラス思考で考えて、「頑張ること、努力すること」を続けていってほしい。
- 0310 教習する力
- 0311 粘り強い人間になってほしい。
- 12 幸福な家庭を築いてほしい
- 0312 距離に置いて、幸せな家庭を築いてもらいたい。
- 0313 職業人や家庭人として良識的で、かつ、幸せな生活を営んでほしい。
- 0314 将来、自分が築く家庭を円満に維持することのできる努力を惜しまぬ人になってほしい。

- 0315 向上心があり、自他を幸せにしようとする意識を持つ。
- 0316 本当の意味での幸せをつかんでほしい。
- 0317 大切な人を罵つけて幸せをつかんではない。
- 0318 幸せな人生を送ってもらいたい。
- 0319 自分の幸せ、家族の幸せを考えた行動がとれる人間になってほしい。
- 0320 幸せな家庭を築き、将来、子どもが成長した頃に親も孝さや苦勞がどれほどであったかを知ってほしい。
- 0321 将来は今までの自分の経験を生かし、明るい家庭をつくり、子どもを立派に育て、社会に貢献することができるよう人間なことを期待している。
- 13 感謝の気持を持ってほしい
- 0322 礼儀正しく体活であり、感謝の心を持つ。
- 0323 感謝の気持ちを持つる人になつてほしい。
- 0324 感謝の気持ちを素直に述べられる人間になつてほしい。
- 0325 物事への感謝の気持ちを育ててほしい。
- 0326 生きていたと思える瞬間を次山経験し、自分の命に対し感謝できるよう、また、自分を大切にできるよう、成長してほしい。
- 0327 問題や失敗がなければ成長はない。嵐の中、どん底を味わったから光明がみえる。経験を積める。対人関係に気を配り信用を得る。「お陰様でありがとうございまして」が言える人間になつてほしい。
- 14 感情の表現ができるようになつてほしい
- 0328 自分の感情を適切に表現できるようになつてほしい。
- 0329 感受性豊かであること
- 0330 感情制御ができるようになつてほしい。
- 0331 感情に流されず、欲望を抑えられる。
- 0332 論理的な思考に基づいた感情によって、左右されることのない行動を取れるようになつてほしい。
- 15 自信を持って行動するようになつてほしい
- 0333 自分の力を信じる力を身に付け、少しづつ大人になり、他者への愛憎を持つる人間になり、また、自分も、家族も、そして目には見えにくくとも社会のことや他者のことを大切にしていけることが、結果的には、幸せに繋がることを理解できる人に成長してほしい。
- 0334 自分に自信を持つるようになつてほしい。
- 0335 自分を信じられる。
- 0336 自分の可能性を広い視野を持って探してもらいたい。
- 0337 自信を持って行動できる。
- (16・17は該当する回答なし)
- 18 夢や希望を持って生きてほしい
- 0338 将来に夢や希望を持って生きてほしい。
- 0339 常に夢や希望、大切なものを持つてほしい。
- 0340 夢や希望をしっかり持つて、それに向けて努力できる人になつてもらいたい。
- 0341 夢や希望を持ち、前向きに生きる。
- 0342 できれば、大きな夢を持ち、それを実現させるために着実に努力してほしい。
- 0343 大きな野心を持って努力して益々る姿勢を身に付けてほしいと思います。
- 0344 とにかく希望を持って生きてほしい。
- 0345 自分のやりたいこと等の希望を実現するための過程をきちんと考え、行動できるような大人になつてもらいたい。

(資料2)

E

調査票 (B) の調査項目

特性形容詞尺度

少年鑑別所用

入所して間もない少年の全体的な印象について、以下の形容詞対がどれくらいあてはまるかを、1~7の中から選んで○をつけてください。

少年院用・入所用

入院して間もない少年の全体的な印象について、以下の形容詞対がどれくらいあてはまるかを、1~7の中から選んで○をつけてください。

少年院用・出院用

出院間近となった少年の全体的な印象について、以下の形容詞対がどれくらいあてはまるかを、1~7の中から選んで○をつけてください。

1	積極的な	1	2	3	4	5	6	7	消極的な
2	人のわるい	1	2	3	4	5	6	7	人のよい
3	なまじきでない	1	2	3	4	5	6	7	なまじきな
4	ひどなつこい	1	2	3	4	5	6	7	近づきがたい
5	にくらしい	1	2	3	4	5	6	7	かわいらしい
6	心のひろい	1	2	3	4	5	6	7	心のせまい
7	非社会的な	1	2	3	4	5	6	7	社会的な
8	責任感のある	1	2	3	4	5	6	7	責任感のない
9	軽率な	1	2	3	4	5	6	7	慎重な
10	恥しらずの	1	2	3	4	5	6	7	恥ずかしがりの
11	厚厚な	1	2	3	4	5	6	7	軽率な
12	沈んだ	1	2	3	4	5	6	7	うきうきした
13	堂々とした	1	2	3	4	5	6	7	卑屈な
14	感じの悪い	1	2	3	4	5	6	7	感じのよい
15	分別のある	1	2	3	4	5	6	7	無分別な
16	親しみやすい	1	2	3	4	5	6	7	親しみにくい
17	無気力な	1	2	3	4	5	6	7	意欲的な
18	自信のない	1	2	3	4	5	6	7	自信のある
19	気長な	1	2	3	4	5	6	7	短気な
20	不親切な	1	2	3	4	5	6	7	親切な

教育目標

少年鑑別所用

少年鑑別所の少年は、以下の各項目について、どの程度あてはまると思いますか。少年全体の大きな印象を結構ですので、「あてはまる」を「1」、「あてはまらない」を「5」とした場合に、最もあてはまる数字を1~5の中から選び、○をつけてください。

1 あてはまる 2 ややあてはまる 3 どちらともいえない 4 ややあてはまらない 5 あてはまらない

少年院用

少年院における教育活動等を通じて、以下の各項目については、それぞれどの程度、期待される方向に変わる印象がありますか。

少年全体の大きな印象を結構ですので、「変わらない」を「1」、「大きく変わる」を「4」とした場合に、最もあてはまる数字を1~4の中から選んで○をつけてください(マイナス方向、悪い方向に変わる場合は、「1 変わらない」に○を付けてください)。

1 変わらない 2 やや変わる 3 かなり変わる 4 大きく変わる

(以下は少年院用の内容である。少年鑑別所用は、文末が「している」などとなっている。)

- 1 決まりの大切さを理解できるようになる
- 2 物事の善悪を適切に見極めることができるようになる
- 3 態度ある行動が取れるようになる
- 4 集中力が養われる
- 5 前向きな気持ちで物事に取り組み始めるようになる
- 6 嫌なことやつらいことから逃避せず、粘り強く物事に取り組み始めるようになる
- 7 感情的にならず、冷静に問題に対処できるようになる
- 8 うそを付いたりごまかしたりしないようになる
- 9 見えや虚勢を張らなくなる
- 10 わがままを抑えられるようになる
- 11 責任感が身に付いてくる
- 12 自分の考えを適切に表現できるようになる
- 13 自分の言動が周囲に及ぼす影響を認識できるようになる
- 14 周りの雰囲気流されないようになる
- 15 周囲の人と協調できるようになる
- 16 他人に対する信頼感を持つようになる
- 17 自分の非行が家族に与えた影響を正しく理解するようになる
- 18 家族に対する感情を整理できるようになる
- 19 自信を持って行動できるようになる
- 20 職業生活に必要な意識、知識、技能等が身に付いてくる
- 21 社会生活への意欲や希望が持てるようになる
- 22 社会人としての心構えができてくる
- 23 堅実で具体的な生活設計を立てられるようになる
- 24 体力が向上してくる
- 25 学力が向上してくる

- 26 本件非行の重大性を認識できるようになる
- 27 被害者に対する謝罪の気持ちが高まる
- 28 自分の問題点に向き合えるようになる
- 29 反社会的集団、暴力、薬物、不良交友、異性関係などの同列的な問題点についての理解が深まる
- 30 不良交友を断ち切る決意を持つようになる

#### 自由記述

##### 少年鑑別所・少年院共通

あなたは、法務教官として、少年に対して今後どのように成長してほしいという希望を持っていますか。具体的なこと、抽象的なこと、どんなことでも構いませんので、自由に記述してください。